2019年度(19期生)

【１年次学習科目】　　基礎分野　　科学的思考の基盤

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">国語表現Ⅰ</td><td>担当
講師</td><td colspan="4">三 宅　え り</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次期
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・日本語の表現を学び､事象を分析的・論理的に思考する方法や､表現力を身につける。
・論理的な思考を身につける。
・看護研究、看護セミナーにむけて発展させる。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．国語表現とは
２．文章表現について
１）段落の役割について
２）「事実」と「意見」について
３）要約について
４）引用の仕方と注の付け方について
３．言葉の使い分けについて
１）待遇表現について
２）スピーチの作成と発表　テーマ「言葉の使い分けについて」
４．文章の作成
１）日誌
２）手紙
３）小論文　テーマ「尊厳死について」
４）小論文鑑賞会</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">授業中の課題への取り組み、および、最終課題の小論文によって評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">プリントを配布する。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業中に紹介する。</td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　基礎分野　　科学的思考の基盤

授業科目	国語表現Ⅱ		担当講師	三 宅　え り			
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	・論理的な思考を身につけるとともに、自己の表現を通して看護行為に必要な他者理解をめざす。 ・看護研究、看護セミナーにむけて発展させる。						
授業計画	１．日本語のトレーニングⅠ １）待遇表現 ２）和語・漢語・外来語 ２．データの活用 １）データの分析 ２）データの収集 ３）データをもとにしたプレゼンテーション ４）データをもとにした小論文の作成 ３．日本語のトレーニングⅡ １）同音・同訓異義語 ２）類義語・対義語 ４．小論文鑑賞会　テーマ「看護師と言葉」						
評価方法	授業中の課題への取り組み、および、最終課題の小論文によって評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

【三次学習科目】	基礎分野	科学的思考の基盤

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">情報科学</td><td>担当
講師</td><td colspan="4">小 澤　克 彦</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・ビジネス文書が作成できるようになる。
・エクセルでデータ処理ができるようになる。
・パワーポイントでプレゼンテーション資料が作成できるようになる。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．Ｗｉｎｄｏｗｓの基本操作。　ＵＳＢメモリーの扱い方。
バックアップの取り方。
２．ＷＯＲＤの基本操作　　文書の体裁を整える。
３．ビジネス文書の作成　（１）　　基本パターンの学習　表の作成
４．ビジネス文書の作成　（２）　段落と箇条書き
５．便利な機能　拡張書式、ヘッダー・フッター、改ページ等。
６．社内文書　ワードアートの活用、オートシェイプ等。
７．ＥＸＣＥＬの基本的な関数（１）　合計、平均、相対番地・絶対番地。
８．ＥＸＣＥＬの基本的な関数（２）　ＣＯＵＮＴ・ＣＯＵＮＴＡ、ＩＦ。
９．ＥＸＣＥＬの基本的な関数（３）　複雑なＩＦ。
１０．ＥＸＣＥＬの関数の活用（１）
端数処理（ＲＯＵＮＤ、ＲＯＵＮＤＵＰ、ＲＯＵＮＤＤＯＷＮ）
１１．ＥＸＣＥＬの関数の活用（２）　ＶＬＯＯＫＵＰ、ＨＬＯＯＫＵＰ
１２．ＥＸＣＥＬ　データベース関数
１３．ＥＸＣＥＬのグラフ
１４．ＰＯＷＥＲ　ＰＯＩＮＴの基本操作
スライドの作成、デザインの変更、クリップアート。
１５．ＰＯＷＥＲ　ＰＯＩＮＴの資料作成　配布資料の作成方法
スライドショーの効果的な設定。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">毎時間の課題、小テスト、最終課題、授業態度を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「情報リテラシー　アプリ編」FOM出版</td></tr>
<tr><td>参考書等</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【１年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">心のしくみと行動</td><td>担当
講師</td><td colspan="4">高 松　み ど り</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・心理学の主要な領域について、基本的な考え方・知識を学ぶ。
・体験的な学習を通して自己理解・他者理解を深め、さらに日常的に何気なく行っている事柄について心理学的な視点から振り返る。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．心理学とは何か
２．性格（性格とは？・性格検査）
３．知覚（視覚の不思議）
４．記憶（記憶のしくみ・忘却の理論）
５．学習（学習の理論）
６．思考（問題解決・推理）
７．言語（言語能力の発達）
８．知能（知能の測定）
９．社会心理（集団行動・対人関係）
10．発達
11．カウンセリング・心理療法</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「系統看護学講座　基礎分野　心理学」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">生活と文化</td><td>担当
講師</td><td colspan="4">金　瑛</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>２年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">本講義では主に社会学や文化人類学における重要な理論を紹介する。理論とは人々の生活や文化を捉える枠組や視点のことである。講義は日常生活における具体的事例を取り上げながら進めるが、その際、受講生には自分自身の経験を振り返る（外から眺める）という作業をしてもらうことになる。人間や社会を客観的に見るということは看護師として必要な能力の一つであり、ぜひ意欲的に授業に臨むよう期待する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．授業の概要・進め方・評価の方法について（社会学とは何か）
２．社会学的発想に慣れるⅠ（「行為論」）
３．社会学的発想に慣れるⅡ（「役割演技」「印象操作」）
４．DVD視聴・小レポート提出
５．現実は社会的に作られるⅠ（「構築主義」）
６．現実は社会的に作られるⅡ（「ラベリング論」）
７．現実は社会的に作られるⅢ（小レポートに向けてのまとめ）
８．DVD視聴・小レポート提出
９．政治と権力Ⅰ（人はなぜ服従するのか）
１０．政治と権力Ⅱ（権力のさまざまな形）
１１．政治と権力Ⅲ（メディアと権力の関係）
１２．DVD視聴・小レポート提出
１３．現代社会論Ⅰ（労働と消費）
１４．現代社会論Ⅱ（リスクとグローバル化）
１５．まとめ、試験の概要の説明
※数回、映画等の視聴を行い、小レポートを書いてもらいます。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">小レポート（30%）、試験（穴埋め、筆記）（70%）</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">現代位相研究所編、2010、『フシギなくらい見えてくる！　本当にわかる　社会学』
日本実業出版社。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">作田啓一他編、2011、『命題コレクション 社会学』、ちくま学芸文庫。
教科書の補足として、適宜、プリントを配布する。</td></tr>
</table>

【１年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

授業科目	人間工学		担当講師	福 村　肇			
開講年次	１年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義
科目概要	・人間を取り巻く人工物、システムや環境などの効率や安全性、快適性を向上させるための人間工学を理解し看護に応用できる知識を身につける。 ・身近にある部品や空間などを対象に、看護の視点から人間工学を学ぶ。 ・作業システムの効率を上げ、エラーを防ぎ安全性を保ち、快適な作業環境を作る方法を学ぶ。						
授業計画	1回目　人間工学とは：基礎から看護と人間工学の関わりについて 2回目　人間の特性（物理的特性/生理的特性）と能力 3回目　ボディメカニクスについて：効率的な身体の使い方 4回目　ボディメカニクスについて：姿勢，力，圧力 5回目　ボディメカニクスを理解する為の力学：ベクトル 6回目　ボディメカニクスを理解する為の力学：てこの原理 7回目　ボディメカニクスを理解する為の力学：トルク 8回目　看護ボディメカニクス：看護の負担を軽減する為に 9回目　看護ボディメカニクス：看護の負担を軽減する為に 10回目　看護ボディメカニクス：看護の負担を軽減する為に 11回目　看護の安全と人間工学：ヒューマンエラーとは～人はなぜ間違えてしまうのか 12回目　ヒューマンエラーと人間特性：生理学的特性，認知的特性，社会的特性 13回目　医療事故を起こさないために：人は誤る事を前提にその対策を考える 14回目　総復習 15回目　総復習＋定期試験						
評価方法	筆記試験						
教科書	河野龍太郎著：医療におけるヒューマンエラー なぜ間違えるどう防ぐ 医学書院 小川 鑛一著：イラストで学ぶ看護人間工学 東京電機大学出版局						
参考書	小川鑛一著：看護・介護を助ける姿勢と動作 東京電機大学出版局 D. A. ノーマン著：誰のためのデザイン？増補・改訂版 ―認知科学者のデザイン原論 新曜社 佐藤和良著：看護学生のための物理学 医学書院						

【２年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">教育と人間</td><td>担当
講師</td><td colspan="4">山 本　直 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>２年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">「教育」に関する基礎的な事象について解説を行う。さらに、各回のテーマについて
意見交流や議論などを通じて、それらの理解を深めてもらいたい。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．イントロダクション
テーマ1；「軍国主義教育と学校、教師、子ども（～1945年）」
２．テーマ1を映像から深める
３．テーマ1についての検討、議論
４．講義
５．日本国憲法と戦後教育の基本理念 ～教育基本法（旧法）を読む～
６．講義
７．テーマ2； 管理主義教育と「落ちこぼれ」問題（1970年代）
８．テーマ2を映像から深める
９．テーマ2についての検討、議論
10. 講義
11. テーマ3；現在の日本社会と教育（1990年代～）
12. テーマ3を映像から深める
13. テーマ3についての検討、議論
14. 講義
15. 全体のまとめ～「学ぶこと」の意味を考える～</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">グループ活動への参加：50％
レポート（レポート検討を含む）：50％</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">テキストは特に指定しないが、各回の授業で資料について適宜指
示する。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【１年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

授業科目	人間関係論		担当講師	伊 藤　大 輔			
開講年次	１年次 前・後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	２単位 60時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。こと医療の現場でも同様のことがいわれている。原因として、挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いことがあげられるだろう。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。職場においても患者やその家族、医師、同僚、先輩、後輩の看護師他　日々必ず他者とかかわらなければならない。そのためにこの教科では、まず、相手を知り、相手を認めることの大切さや、コミュニケーションを上手にとり、楽しい生き方をするための人間関係の築きかたを実体験的に学び、医療現場での人間関係　患者とその家族、医師、看護師および学生間での人間関係に探求する。						
授業計画	第1回　人間関係論概論　　授業オリエンテーション　体験学習概論　　向き合うとは 第2回　集団的人間関係論　　関わること「心の緊張をほぐす　デートゲーム」 第3回　印象形成と対人認知１　　印象ゲーム　　印象テスト　　自己の印象を知る 第4回　印象形成と対人認知２　　ジョハリの窓　自己開示法とフィードバック 第5回　自己実現　　目的志向型に生きるとは 第6回　自己ＰＲ法　　コミュニケーションツールの作成 第7回　非言語的コミュニケーション１　　ノンバーバルコミュニケーションワーク１ 第8回　非言語的コミュニケーション２　　ノンバーバルコミュニケーションワーク２ 第9回　コミュニケーションの阻害要因　　一方向のコミュニケーションと双方向のコミュニケーション 第10回 ﾊﾟｰｿﾅﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾏｽｽｺﾐｭﾆｹｰｿﾝ　　私の私　私が思っている私と他者が思っている私 第11回 カウンセリング１　　援助的コミュニケーション　カウンセリングの考え方 第12回 カウンセリング２　　傾聴法 第13回 カウンセリング３　　人間関係を築く面接技法 第14回 グループコンセンサス１　　グループエンカウンター　形成 第15回 グループコンセンサス２　　イニシアティブゲーム 第16回 グループコンセンサス３　　合意形成とは　価値の順位　サバイバル 第17回 医師と患者の感情　　QOLとインフォームドコンセント「不妊治療の現場から} 第18回 価値観と人間関係　　価値観とは　自己の価値観と他者の価値観 第19回 論理的人間関係１　　ディベートとは　役割分担　テーマ選択 第20回 論理的人間関係２　　立論の立て方 第21回 論理的人間関係３　　反駁の仕方 第22回 論理的人間関係４　　模擬ディベート 第23回 論理的人間関係５　　ディベート演習１ 第24回 論理的人間関係６　　ディベート演習２ 第25回 論理的人間関係７　　ディベート演習３まとめ　相互理解と納得話法 第26回 チーム医療１　　医療ミスをおこさない人間関係　「医療かるたづくり」 第27回 チーム医療２　　医療ミスをおこさない人間関係　「医療かるたづくり」 第28回 医療現場での人間関係１　　終末期の患者と家族を支える人間関係　スピリチュアルケア 第29回 医療現場での人間関係２　　患者との相互関係の構築とケア 第30回 クラスの人間関係　　問題解決型ワークショップ　まとめとふりかえり						
評価方法	毎時レポートおよび期末レポート、演習での評価に加え、受講態度をあわせた総合評価とする。この授業は演習を中心とした参加体験型で行うので、毎回学生の主体的、積極的な受講態度が求められる。						
教科書	特に定めない。必要に応じてプリント教材の配布を行う。ノートを１冊ご用意ください。						
参考書	「系統看護学講座　基礎分野　「人間関係論」」 「人間関係トレーニング」～私を育てる教育への人間学的アプローチ～ 「Creative Human relations」　「自分探しの心理学」「実践・論理思考トレーニング」他 人間および人間関係の理解と充実に役立つ文献を授業中に紹介する。						

【１年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

授業科目	人間関係論		担当講師	伊 藤　大 輔			
開講年次	１年次 前・後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	２単位 60時間	授業 形態	演習
科目概要	同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。こと医療の現場でも同様のことがいわれている。原因として、挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いことがあげられるだろう。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。職場においても患者やその家族、医師、同僚、先輩、後輩の看護師他日々必ず他者とかかわらなければならない。そのためにこの教科では、まず、相手を知り、相手を認めることの大切さや、コミュニケーションを上手にとり、楽しい生き方をするための人間関係の築きかたを実体験的に学び、医療現場での人間関係　患者とその家族、医師、看護師および学生間での人間関係に探求する。						

じゅぎょう

回	項　目	内　　容	教授法
1	人間関係論概論	授業オリエンテーション　体験学習概論　　向き合うとは	講義
2	集団的人間関係論	関わること「心の緊張をほぐす　デートゲーム」	演習
3	印象形成と対人認知１	印象ゲーム　　印象テスト　自己の印象を知る	講義と演習
4	印象形成と対人認知２	ジョハリの窓　自己開示法とフィードバック	講義と演習
5	自己実現	目的志向型に生きるとは	演習
6	自己PR法	コミュニケーションツールの作成	講義と演習
7	非言語的コミュニケーション１	ノンバーバルコミュニケーションワーク1	演習
8	非言語的コミュニケーション２	ノンバーバルコミュニケーションワーク2	講義と演習
9	コミュニケーションの阻害要因	一方向のコミュニケーションと双方向のコミュニケーション	講義と演習
10	ﾊﾟｰｿﾅﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾏｽｽｺﾐｭﾆｹｰｿﾝ	私の私　私が思っている私と他者が思っている私	講義と演習
11	カウンセリング１	援助的コミュニケーション　カウンセリングの考え方	講義と演習
12	カウンセリング２	傾聴法	講義と演習
13	カウンセリング３	人間関係を築く面接技法	講義と演習
14	グループコンセンサス１	グループエンカウンター　形成	講義と演習
15	グループコンセンサス２	イニシアティブゲーム	演習
16	グループコンセンサス３	合意形成とは　価値の順位　サバイバル	講義と演習
17	医師と患者の感情	QOLとインフォームドコンセント「不妊治療の現場から」	VTR視聴と演習
18	価値観と人間関係	価値観とは　自己の価値観と他者の価値観	講義と演習
19	論理的人間関係１	ディベートとは　役割分担　テーマ選択	講義
20	論理的人間関係２	立論の立て方	演習
21	論理的人間関係３	反駁の仕方	演習
22	論理的人間関係４	模擬ディベート	演習
23	論理的人間関係５	ディベート演習1	演習
24	論理的人間関係６	ディベート演習2	演習
25	論理的人間関係７	ディベート演習3　まとめ　相互理解と納得話法	講義と演習
26	チーム医療１	医療ミスをおこさない人間関係 「医療かるたづくり」	演習
27	チーム医療２	医療ミスをおこさない人間関係 「医療かるたづくり」	講義と演習
28	医療現場での人間関係１	終末期の患者と家族を支える人間関係　スピリチュアルケア	VTR視聴と講義
29	医療現場での人間関係２	患者との相互関係の構築とケア	VTR視聴と講義
30	クラスの人間関係	問題解決型ワークショップ　まとめとふりかえり	演習

評価方法	毎時レポートおよび期末レポート、演習での評価に加え、受講態度をあわせた総合評価とする。この授業は演習を中心とした参加体験型で行うので、毎回学生の主体的、積極的な受講態度が求められる。
教科書	特に定めない。必要に応じてプリント教材の配布を行う。 ノートを１冊ご用意ください。
参考書	「系統看護学講座　基礎分野　「人間関係論」」 「人間関係トレーニング」～私を育てる教育への人間学的アプローチ～ 「Creative Human relations」　「自分探しの心理学」「実践・論理思考トレーニング」他　　人間および人間関係の理解と充実に役立つ文献を授業中に紹介する。

【２年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

授業科目	外国語（英会話）		担当講師	David de Pury			
開講年次	２年次 前期	選択 必須	選択	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義
科目概要	各国の言語を学び、その国の文化･歴史にふれ、国際社会に対応できる会話力を身につける。						
授業計画	１．Checking In 1 ２．Personal History 8 ３．Admission and Orientation to the Hospital Routine 15 ４．Daily Activities 21 ５．Pain 28 ６．Clinical History 35 ７．Vital Signs and Physical Assessment 44 ８．Positioning the Patient in Bed and Making the Bed 50 ９．Bath and Comfort 57 １０．Procedures 63 １１．Tests 71 １２．Patient Teaching 78 １３．Exercise １４．Exercise						
評価方法	筆記試験						
教科書	ナンシー・シャーツ - ホプコ 著　「臨床看護英語」　医学書院						
参考書							

【２年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

授業科目	外国語（ポルトガル話）		担当講師	住 田　育 法、ｱﾅ･ｸﾘｽﾁｰﾅ・ｱｹﾐ･ﾔﾏﾓﾄ			
開講年次	２年次前期	選択必須	選択	単位数時間数	１単位30時間	授業形態	講義
科目概要	各国の言語を学び､その国の文化･歴史にふれ､国際社会に対応できる会話力を身につける。						
授業計画	１．ブラジルの人と文化を知る ２．私はだれ　挨拶、紹介　動詞ｓｅｒ ３．動詞の活用　名詞の性 ４．地域のことをたずねられたら ５．受診にきたら ６．入院してきたら ７．ひとのからだ　病気の検査 ８．事故による怪我　手術 ９．妊娠　お産　お産のあと　授乳 10．小児科のこと 11．診療所にて　病気と治療 12．病院で治療　家庭で療養 13．患者さんとおしゃべり 14．ブラジルの歴史と社会を知る						
評価方法	筆記試験						
教科書	「生きたブラジルポルトガル語 初級」　　同学社						
参考書							

【１年次学習科目】　　基礎分野

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ</td><td>担当
講師</td><td colspan="4">橋 本　和 俊</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>1年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
45時間</td><td>授業
形態</td><td>講義
実技</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">スポーツ・レクリエーションは生涯を通じた身体活動として健康・疾病予防の点からも今後ますます重要になると考えられます。その中でも、自然を通じた様々な活動は体力維持・向上だけでなく、精神的側面からの効果も期待されます。本授業では、主に自然の中での活動を通し、生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる知識・能力の獲得を目指します。尚、本授業ではオリエンテーション時に決定した日時において週末の1日を利用した野外におけるプログラムを実施します。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">1.オリエンテーション
2. アイスブレーキング
3. 仲間作り野外ゲーム①
4. 仲間作り野外ゲーム②
5. ニュースポーツ①
6. ニュースポーツ②
7. ネイチャーゲーム
8.
9. Day Camp（野外クッキングなど）
10.
11.ネイチャークラフト
12.
13. Day Trekking
14.
15.予備日（ニュースポーツまとめ）</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">出席50％
参加態度30％
レポート20％</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">芸術（絵画）</td><td>担当
講師</td><td colspan="4">吉 山　輝 幸</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>２年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>選択</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>創作</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">創作活動や作品鑑賞を通して感性を高めるとともに、自己表現力を身につける。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．鉛筆デッサンの基礎Ⅰ・・・　幾何形体「立方体」（石こう）
２．鉛筆デッサンの基礎Ⅰ　幾何形体「円柱」（石こう）
３．鉛筆デッサンの基礎Ⅰ　幾何形体「球」（石こう）
４．鉛筆デッサンの基礎Ⅱ・・・　「静物」
５．水彩画「花を描く」
６．水彩画「風景を描く」
７．鉛筆デッサンの基礎Ⅲ・・・　人体石こう像「胸像」Ａ．
８．鉛筆デッサンの基礎Ⅲ　人体石こう像「胸像」Ｂ．
９．木炭デッサン　人体石こう像「胸像」Ａ．
10．木炭デッサン　人体石こう像「胸像」Ｂ．
11．アクリル画「花を描く」
12．アクリル画「風景を描く」
13．アクリル画「人物を描く」
14．卒業制作
15．卒業制作

＜個人＞
・鉛筆（HB～６B）
・スケッチブック（B3）
・キャンバス（F・10号）
・透明水彩絵具セット
・アクリル絵具セット
・練り消しゴム

＜学校備品＞
・石こう（立方体・円柱・球）
・人体石こう（胸像）
・カルトン
・イーゼル</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">出席日数・作品提出</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　基礎分野　　人間と生活、社会の理解

授業科目	芸術（陶芸）		担当講師	上 田　健 次			
開講年次	２年次前期	選択必須	選択	単位数時間数	１単位30時間	授業形態	創作
科目概要	創作活動や作品鑑賞を通して感性を高めるとともに､自己表現力を身につける。						
授業計画	１．陶芸(焼もの）について			作業場見学			講義
	２．粘土にふれる			自由作			実習
	３．人と焼もの係り			日本・世界のやきもの			講義
	４．茶碗を造る			抹茶茶碗、飯茶碗、湯呑			実習
	５．花入を造る			花瓶、水盤			実習
	６．お皿を造る			得意メニューのうつわを			実習
	７．陶芸展観賞			陶芸館、伝統産業会館			観賞
	８．レリーフを造る			表現力			実習
	９．動物を造る			十二支			実習
	10．陶土採掘場、精練工場、古窯跡						見学
	11．陶板を造る						実習
	12～14．文化祭出品作						実習
	15．求詳会　希望により実習						
評価方法	熱意・表現力と作品提出						
教科書							
参考書							

【1年次学習科目】　専門基礎分野　人体の構造と機能

授業科目	人体の構造と機能Ⅰ		講師	相 見　良 成			
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	人体の運動、代謝および生殖に関連する諸器官の構造と機能を学び理解する。						
授業計画	１．解剖学・生理学とはなにか？（イントロダクション） ２．循環器系 ３．呼吸器系 ４．消化器系と代謝						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン N マリーブ著　林正健二・淺見一羊他訳　「人体の構造と機能」医学書院						
参考書							

【1年次学習科目】　専門基礎分野　人体の構造と機能

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ		講師	相 見　良 成			
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	人体の運動、代謝および生殖に関連する諸器官の構造と機能を学び理解する。						
授業計画	１．骨格系 ２．筋系 ３．細胞と組織 ４．泌尿器系 ５．生殖器系 ＊模擬試験 ＊総復習						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン Ｎ マリーブ著　林正健二・淺見一羊他訳　「人体の構造と機能」医学書院						
参考書							

【1年次学習科目】　専門基礎分野　人体の構造と機能

授業科目	人体の構造と機能Ⅲ		講師	豊 田　太			
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	・生命維持に必要な人体の防御と調節･刺激の受容について理解できる。 ・生活者としての人を観る基礎となる人体の構造と機能を学ぶ。						
授業計画	１．皮膚と膜 人体の膜の分類 皮膚（外皮系） 皮膚の膜の発生・発達・老化 皮膚の付属器官 皮膚のホメオスタシスの失調 ２．神経系 中枢神経と末梢神経 シナプスの構造と機能 興奮の伝導のしくみ 脊髄・脳幹・小脳・間脳・大脳の機能 大脳基底核の機能 古皮質・視床下部 脳室・脳脊髄液の流れ ３．特殊感覚 眼と視覚 眼球の構造 聴覚と平衡感覚 味覚と嗅覚						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン N マリーブ著　林正健二・淺見一羊他訳　「人体の構造と機能」医学書院						
参考書							

【1年次学習科目】　専門基礎分野　人体の構造と機能

授業科目	人体の構造と機能Ⅳ		講師	豊 田　太			
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	・生命維持に必要な人体の防御と調節･刺激の受容について理解できる。 ・生活者としての人を観る基礎となる人体の構造と機能を学ぶ。						
授業計画	１．内分泌系　内分泌と外分泌 ホルモンの構造と作用機序 主な内分泌器官 ホルモンの分泌調節 各種ホルモンの機能 内分泌異常と病気 ２．血液　血液の成分と血漿成分 血液型と輸血 血液凝固・線溶 ＤＩＣ・血友病 造血のしくみ 血液の病気 ３．生体防御機構　リンパ系 自然免疫　マクロファージ、好中球、ＮＫ細胞 抗体とその構造・機能 後天性免疫不全症候群について						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン Ｎ マリーブ著　林正健二・淺見一羊他訳　「人体の構造と機能」医学書院						
参考書							

授業科目	代謝と栄養Ⅰ		講師	佐 藤　隆 司			
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	人体を構成している物質の性質とその代謝を学び、生体活動のメカニズムを理解する。						
授業計画	Ⅰ 生体を構成する物質 １．生化学を学ぶ基礎知識 ２．糖質 ３．脂質 ４．タンパク質 ５．核酸 ６．水と無機質 Ⅱ 生体内の物質代謝 ７．代謝概要 ８．酵素 ９．ビタミンと補酵素 10．糖質代謝 11．脂質代謝 12．タンパク質代謝 13．核酸代謝 14．遺伝情報						
評価方法	筆記試験（50%）、小テスト（40%）、受講態度（10%）の総合評価						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能２　生化学」医学書院						
参考書							

【1年次学習科目】　　専門基礎分野　　人体の構造と機能

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">代謝と栄養Ⅱ</td><td>講師</td><td colspan="4">谷 口　美 津 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>1年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
３０時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・健康の維持・回復に必要な栄養と食事療法の基本について理解する。
・ライフサイクルに応じた栄養のあり方を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">1. 食生活・栄養の意義
2. 栄養素　　（炭水化物・脂質）
3. 栄養素　　（タンパク質・無機質・ビタミン）
4. 栄養素の摂取、消化
5. 栄養素の吸収、排泄
6. ライフサイクルと栄養　　（乳児・幼児・学童期・思春期）
7. ライフサイクルと栄養　　（成人・老年・妊婦）
8. 食品と栄養　　（総論・各論）
9. 疾病と栄養　　（総論）
10. 疾病と栄養　　（各論1）
11. 疾病と栄養　　（各論2）
12. 疾病と栄養　　（各論3）
13・14　調理実習　　（治療食）</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「わかりやすい栄養学　臨床・地域で役立つ食生活指導の実際」　ヌーベルヒロカワ
「糖尿病食事療法のための食品交換表　第6版」　　日本糖尿病協会・文光堂</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

授業科目	人体と微生物		講師	福 堀　順 敏			
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	２単位 45時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	・微生物が人体におよぼす影響および病原微生物の感染予防について学ぶ。感染・滅菌・消毒について詳しく学ぶ。 ・特に新興・再興感染症薬剤耐性菌についての対策を考える。						
授業計画	１．微生物学の基礎（１）微生物とはなにか ２．微生物学の基礎（２）微生物の一般性状 ３．微生物学の基礎（３）微生物の滅菌と消毒 ４．微生物学の基礎（４）微生物に対する化学療法 ５．微生物学の基礎（５）微生物の検査方法 ６．微生物の感染（１）微生物のヒトへの感染 ７．微生物の感染（２）日和見感染と院内感染 ８．病原微生物各論（１）病原細菌１ ９．病原微生物各論（２）病原細菌２ 10．病原微生物各論（３）病原細菌３ 11．病原微生物各論（４）病原真菌 12．病原微生物各論（５）病原原虫 13．病原微生物各論（６）病原ウイルス１ 14．病原微生物各論（７）病原ウイルス２ 15．病原微生物各論（８）病原ウイルス３ 16．感染予防対策（１）感染予防・予防接種 17．感染予防対策（２）感染症の疫学 18．免疫（１）免疫とは何か 19．免疫（２）液性免疫 20．免疫（３）細胞性免疫 21．免疫（４）アレルギー 22．免疫（５）免疫不全症と自己免疫病						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［４］微生物学」 医学書院						
参考書							

【1年次学習科目】　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	病因論		講師	杉 原　洋 行			
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	人間の生活を調整するために､健康から疾病に至る身体内部の変化について理解を深める。						
授業計画	第1回　１．病気になるということ １）内因と外因 ２）病態を織りなす縦糸と横糸 ３）ホメオスタシスと急性の変化、慢性の変化 ２．細胞社会の量的変化：細胞交替とその障害 １）細胞の増殖、分化と死 ２）細胞集団のサイズの変化：萎縮と生長（過形成、腫瘍） 第２回　３．細胞の変化 １）変性と壊死、アポトーシス ２）代謝異常 ３）細胞のサイズの変化：萎縮と肥大 ４．個体から個体への遺伝 １）優性と劣性 ２）遺伝と進化 第３回　５．体細胞から体細胞への遺伝：腫瘍と先天異常 １）優性遺伝子と劣性遺伝子 ２）腫瘍の本態、腫瘍を臨床でどう扱うか ３）先天異常 第４回　６．循環障害 １）うっ血と浮腫 ２）止血と出血傾向、血栓と塞栓 ３）リンパ系と胸水・腹水 第５回　７．細胞社会の維持：炎症と免疫 １）炎症の急性と慢性 ２）細菌の進化と免疫系の進化 ３）免疫の２つの顔：排除と寛容 第６回　８．細胞社会の変質 １）感染防御免疫とアレルギーとの関係 ２）老化 第７回　９．死と病理解剖						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［１］病理学」医学書院						
参考書							

【1年次学習科目】　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">病気と検査</td><td>講師</td><td colspan="4">岡 林　旅 人</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>1年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
15時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">血液検査の意義や検査値の臨床病理的な意味、検査結果の解釈の仕方を学び、病態と関連付けて理解する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．臨床検査とその役割

２．臨床検査の流れと看護師の役割

３．一般検査　１）尿検査
２）便検査
３）穿刺液検査
４）脳脊髄液（髄液）検査
５）関節液検査
６）消化液検査

４．血液検査　１）赤血球沈降速度（赤沈/血沈）検査
２）血球検査
３）出血・凝固検査
４）骨髄検査

５．化学検査　１）血清タンパク質の検査
２）血清酵素の検査
３）糖代謝の検査
４）脂質代謝の検査
５）胆汁排泄関連物質の検査
６）腎機能の検査
７）窒素化合物の検査
８）水・電解質の検査
９）血液ガス分析
10）鉄代謝関連検査

６．免疫・血清検査　１）炎症マーカーの検査
２）自己抗体の検査
３）アレルギー検査―アレルゲン検索
４）輸血に関する検査

７．ホルモン検査　１）下垂体前葉・後葉ホルモンの検査
２）甲状腺ホルモンの検査
３）副腎皮質・髄質ホルモンの検査
４）性線ホルモンの検査</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「系統看護学講座　別巻　臨床検査」医学書院
「検査値　早わかりガイド」医学芸術社</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">病態治療論Ⅰ
（生命維持機能の障害：呼吸）</td><td>講師</td><td colspan="3">藤 田　琢 也</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間
(14)</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・生活者としての人間の健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生命維持機能の障害を理解する。
・呼吸障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．呼吸器系の形態と機能

２．症状と病態生理

３．診断と検査

４．主な治療法

５．主な疾患とその診療
１）感染症
・かぜ
・インフルエンザ
・肺炎
・結核

２）間質性肺疾患
・塵肺

３）気道疾患
・気管支喘息
・気管支拡張症
・慢性閉塞性肺疾患

４）肺血栓塞栓症

５）呼吸不全

６）肺腫瘍

７）胸膜・縦隔の疾患</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験。本科目は、呼吸の単元50点、循環の単元50点、合計100点の試験を行う。
それぞれの単元で60%（30点）以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学［２］呼吸器」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

授業科目	病態治療論Ⅰ （生命維持機能の障害　：循環・体温）			講師	川 嶋　剛 史		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間 (16)	授業 形態	講義･演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・循環・体温維持機能障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．心臓・血管系の形態と機能 ２．症状と病態生理 ３．診断と検査 ４．主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）虚血性心疾患 ・狭心症 ・心筋梗塞 ２）心不全 ３）血圧異常 ・高血圧 ・低血圧 ４）不整脈 ５）弁膜症 ・僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症 ・大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症 ・心内膜炎 ６）心膜炎 ・心タンポナーデ ７）動脈系疾患 ・大動脈瘤 ８）静脈系疾患 ・血栓性静脈炎 ・静脈瘤 ９）リンパ管炎						
評価方法	筆記試験。本科目は、呼吸の単元50点、循環の単元50点、合計100点の試験を行う。 それぞれの単元で60%（30点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［３］循環器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅱ （消化機能の障害①）			講師	八 木　勇 紀		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間 (8)	授業 形態	講義･演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・消化機能に障害を起こす疾患の、病態生理と検査、治療法（内科的）について学ぶ。						
授業計画	１．消化器系の形態と機能 ２．症状と病態生理 ３．診断の基礎と検査 ４．主な疾患と内科的治療法 ＜食道・胃・腸の疾患＞ ・食道癌 ・胃食道逆流症 ・胃炎 ・胃十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・腸炎（急性腸炎、感染性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎） ・腸結核 ・イレウス ・大腸癌 ・大腸ポリープ ＜肝臓・胆嚢・膵臓の疾患＞ ・肝炎（急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎） ・肝硬変 ・肝癌 ・胆嚢炎 ・胆道癌 ・胆嚢結石 ・膵炎（急性膵炎、慢性膵炎） ・膵臓癌 ５．画像診断によるグループワーク（演習）						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、消化機能障害①の単元40点、消化機能障害②の単元60点、100点の試験を行う。それぞれの単元で60%（①は24点、②は36点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［５］消化器」　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅱ （消化機能の障害）			講師	池田　房夫		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間 (18)	授業 形態	講義・演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・消化機能に障害をおこす疾患の病態生理と検査、治療（外科的）について学ぶ。						
授業計画	１．消化器系の形態と機能 ２．症状と病態生理 ３．診断の基礎と検査 ４．消化管の手術と術前術後管理 ５．肝・胆・膵の手術と術前術後管理 ６．主な疾患とその診療 １）食道癌 ２）胃癌 ３）結腸癌 ４）直腸癌 ５）虫垂炎 ６）腸閉塞 ７）肝癌 ８）その他 ７．画像診断によるグループワーク（演習）						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、消化機能障害①の単元40点、消化機能障害②の単元60点、100点の試験を行う。それぞれの単元で60%（①は24点、②は36点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［５］消化器」　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅱ （消化機能の障害③）			講師	角 熊　雅 彦		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間 (4)	授業 形態	講義・演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・消化機能に障害を起こす疾患の、病態生理と検査、治療法（歯科・口腔外科）について学ぶ。						
授業計画	１．歯・口腔の構造と機能 ２．症状と病態生理 ３．検査と治療・処置 ４．主な疾患と歯科・口腔外科的治療法 １）　歯の異常と疾患 ２）　歯周組織の疾患 ３）　口腔粘膜の疾患 ４）　口腔領域ののう胞 ５）　口腔領域の腫瘍 ６）　口腔領域の悪性腫瘍 ７）　顎骨の外傷 ８）　先天異常および発育異常 ９）　顎関節の疾患 10）唾液腺の疾患 11）神経の疾患						
評価方法	本科目の単元である消化機能障害①②の試験結果を反映する。						
教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学　［１５］　歯・口腔　　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅲ （脳･神経機能の障害）		講師	渡 邊　一 良・小 河　秀 郎			
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間 (20)	授業 形態	講義・演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・脳、神経機能障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．概論－重要な問題点と考え方 ２．神経疾患と医療の流れ ３．脳・神経系の形態と機能 ４．神経症状 ５．診断と治療 ６．主な疾患とその診療 １）脳卒中 ２）筋萎縮性側索硬化症 ３）多発性硬化症 ４）進行性筋ジストロフィー ５）重症筋無力症 ６）アルツハイマー病 ７）パーキーンソン氏病 ８）その他 ７．手術適応となる主な疾患とその診療 ８．画像診断によるグループワーク（演習）						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、脳・神経機能障害の単元60点、造血・免疫機能障害の単元40点で構成する。それぞれの単元で60%（脳・神経は36点、造血・免疫は24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学［７］脳・神経」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅲ （造血･免疫機能の障害）			講師	清 水　和 也・武 内　美 紀		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間 (10)	授業 形態	講義・演習
科目概要	･人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ･造血、免疫機能に障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．血液、造血器および免疫機能に関する臓器の形態と機能 ２．症状と病態整理 ３．診断と検査 ４．主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）貧血 ２）血友病 ３）血小板減少症 ４）白血病 ５）悪性リンパ腫 ６）ＡＩＤＳ ７）その他 ６．化学療法による生体侵襲と患者理解（演習）						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、脳・神経機能障害の単元60点、造血・免疫機能障害の単元40点で構成する。それぞれの単元で60%（脳・神経は36点、造血・免疫は24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［４］血液・造血器」　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅳ （内部環境調節機能の障害）			講師	大 村　寧		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (8)	授業 形態	講義・演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・内部環境調節機能に障害をおこす内分泌系臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．　内分泌系臓器の形態と機能 ２．　症状と病態整理 ３．　診断と検査 ４．　主な治療法 ５．　主な疾患とその診療 1)内分泌疾患 ・クッシング症候群 ・尿崩症 ・成長ホルモン産生腫瘍 ・バセドウ病 ・甲状腺腫瘍 ・甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症 ・副甲状腺疾患 2)代謝疾患 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・肥満症とメタボリックシンドローム ・尿酸代謝異常 ６．　血糖測定体験（演習）						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、内部環境調節機能障害30点、体液調節障害30点、感染・アレルギー障害40点で構成する。それぞれの単元で60%（内部環境は18点、体液調節は18点、感染・アレルギーは24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［６］内分泌・代謝」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅳ （体液の調節障害）			講師	桑 形　尚 吾 ／ 金　哲 將		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (10)	授業 形態	講義・演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・体液の調節機能の障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患と治療について学ぶ。						
授業計画	１．腎・泌尿器系の形態と機能 ２．症状と病態生理 ３．診断と検査 ４．治療 ５．主な疾患とその診療 １）腎不全と慢性腎臓病 ・透析療法 ・腎移植 ２）原発性糸球体腎炎 ・　糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 ３）全身性疾患による腎障害 ・糖尿病性腎症 ・アミロイド腎症 ・多発性骨髄腫 ４）尿路の障害 ・水腎症 ・神経因性膀胱 ・尿失禁 ５）結石 ・腎結石、尿管結石、膀胱結石 ６）腫瘍 ・腎がん、膀胱がん、前立腺がん ６．尿検査体験（演習）						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、内部環境調節機能障害30点、体液調節障害30点、感染・アレルギー障害40点で構成する。それぞれの単元で60%（内部環境は18点、体液調節は18点、感染・アレルギーは24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［8］腎・泌尿器」　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅳ （感染･アレルギー系の障害）			講師	南 部　卓 三		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (12)	授業 形態	講義・演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・感染、アレルギー系の障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患と治療について学ぶ。						
授業計画	Ⅰ　感染症 １．感染症とは ２．感染症の症状と病態生理 ３．感染症の診断と検査 ４．感染症の主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）菌血症 ２）吸器感染症 ３）性感染症 ４）消化管感染症 ５）輸入感染症 ６）その他 ６．感染症に関するグループワーク（演習） Ⅱ　アレルギー １．免疫のしくみ ２．アレルギーの症状と病態生理 ３．アレルギーの診断と検査 ４．アレルギーの主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）気管支喘息 ２）アレルギー性鼻炎 ３）アトピー性皮膚炎 ４）その他 Ⅲ　膠原病 １．自己免疫とは ２．膠原病の症状と病態生理 ３．膠原病の診断と検査 ４．膠原病の主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）関節リウマチ ２）全身性エリテマトーデス ３）ベーチェット病 ４）その他						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、内部環境調節機能障害30点、体液調節障害30点、感染・アレルギー障害40点で構成する。それぞれの単元で60%（内部環境は18点、体液調節は18点、感染・アレルギーは24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［11］ｱﾚﾙｷﾞｰ･膠原病･感染症」　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅴ （感覚機能の障害：視覚）			講師	山 下　智 弘		
開講年次	２年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (6)	授業 形態	講義
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・視覚障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．眼球および付属器の形態と機能 ２．症状と病態整理 ３．診断と検査 ４．主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）屈折の異常 ２）調節の異常 ３）色覚の異常 ５）眼位・眼球運動の異常 ①斜視 ６）眼瞼の疾患 ①麦粒腫 ②霰粒腫 ７）結膜の疾患 ①細菌性結膜炎 ②流行性角結膜炎 ８）涙器の疾患 ①鼻涙管閉塞 ９）角膜の疾患 ①角膜びらん ②単純ヘルペス性角膜炎 10）ぶどう膜の疾患 ①ベーチェット病 11）眼底（網膜・脈絡膜）の疾患 ①糖尿病網膜症 ②網膜剥離 12）水晶体の疾患 ①老人性白内障 13）硝子体の疾患 14）緑内障 15）外傷						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①~⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［13］ 眼 」　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅴ （感覚機能の障害:聴覚･嗅覚）			講師	入 川　直 矢		
開講年次	２年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (6)	授業 形態	講義
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・嗅覚、聴覚障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．耳鼻咽喉の形態と機能 ２．症状と病態生理 ３．診断と検査 ４．主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）外耳疾患 ２）中耳疾患 ３）内耳・後迷路性疾患 ①メニエール病 ②老人性難聴 ③突発性難聴 ４）外鼻疾患 ５）鼻腔疾患 ①鼻中隔彎曲症 ②鼻出血 ６）副鼻腔疾患 ①急性副鼻腔炎 ②慢性副鼻腔炎 ③上顎がん ７）咽頭疾患 ①急性扁桃炎 ②扁桃肥大症 ③下咽頭がん ④上咽頭がん ８）唾液腺疾患 ①流行性耳下腺炎 ②シェーグレン症候群 ９）喉頭疾患 ①仮性クループ ②喉頭がん 10）気道・食道の疾患 ①気道異物 ②気管切開 11）頸部疾患 ①甲状腺疾患						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①~⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［14］ 耳鼻咽喉 」　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅴ （感覚機能の障害：皮膚）			講師	山 本　文 平		
開講年次	２年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (6)	授業 形態	講義
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・皮膚感覚（触覚）障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．皮膚の形態と機能 ２．症状と病態生理 ３．診断と検査 ４．主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）接触性皮膚炎 ２）蕁麻疹 ３）紅斑症 ４）水疱症 ５）角化症 ６）熱傷 ７）褥瘡 ８）腫瘍 ９）白癬症 10）帯状疱疹 11）疥癬 12）膠原病 13）その他						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①~⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［12］ 皮膚 」　医学書院						
参考書							

【２年次学習科目】　　専門基礎分野　　疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	病態治療論Ⅴ（生命の連続性をつくり出す機能の障害：女性生殖器の異常）			講師	小 林　昌　　・沖 野　孝		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (6)	授業 形態	講義・演習
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・生命の連続性をつくり出す女性生殖機能の病態生理及び疾患と治療について学ぶ。						
授業計画	１．女性生殖器の形態と機能 １）女性とホルモン ２）月経の生理 ２．症状と病態生理 ３．診断と検査 ４．主な疾患とその診療 １）月経異常 ２）子宮内膜症 ３）子宮筋腫と子宮癌 ４）卵巣腫瘍と卵巣癌 ＜乳房＞ １．乳腺疾患 １）良性腫瘍 （１）乳腺炎 （２）乳腺症 （３）乳腺のう胞 （４）乳腺良性腫瘍 ２）乳癌 ３）検査・治療法						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①~⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［9］ 女性生殖器 」　　医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅴ（生命の連続性をつくり出す機能の障害：男性生殖器の異常）			講師	金　哲 將		
開講年次	２年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間 (6)	授業 形態	講義
科目概要	・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・生命の連続性をつくり出す男性生殖機能の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。						
授業計画	１．男性生殖器の形態と機能 ２．症状と病態生理 ３．診断と検査 ４．主な治療法 ５．主な疾患とその診療 １）勃起障害 ２）射精障害 ３）無精子症 ４）陰嚢水腫 ５）その他						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①~⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［8］ 腎・泌尿器 」　医学書院						
参考書							

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">病態治療論Ⅵ
（運動機能の障害）</td><td>講師</td><td colspan="3">伊 藤　隆 司</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>２年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
１５時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。
・運動機能障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">１．筋、骨格器系の形態と機能
２．症状と病態生理
３．診断と検査
４．主な治療法
５．主な疾患とその診療
１）骨折
２）脱臼
３）捻挫および打撲
４）神経の損傷
①脊髄損傷
②末梢神経損傷
５）筋・腱・靭帯などの損傷
①アキレス腱断裂
②膝内障
６）先天性疾患
７）骨・関節の炎症性疾患
①骨髄炎
②化膿性関節炎
③変形性関節炎（ＯＡ）
④関節リウマチ（ＲＡ）
⑤痛風
８）骨腫瘍および軟部腫瘍
①良性骨腫瘍
②悪性骨腫瘍
９）代謝性骨疾患
10）筋および腱の疾患
①ばね指
②ガングリオン
11）上肢および上肢帯の疾患
12）脊椎の疾患
13）下肢および下肢帯の疾患</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［10］ 運動器 」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

授業科目	病気とくすり			講師	天 ヶ 瀬　紀 久 子		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	薬物療法の基礎となる薬の特徴と作用機序､疾患別に用いられる薬の人体の影響について学ぶ。						
授業計画	１．薬理学総論 ２．薬剤学総論 ３．抗感染症薬 ４．悪性腫瘍治療薬 ５．免疫治療薬 ６．抗アレルギー、抗炎症薬 ７．末梢神経作用薬 ８．中枢神経作用薬 ９．心臓・血管系に作用する薬物 10．呼吸器系に作用する薬物 11．消化器系に作用する薬物 12．ビタミンとホルモン 13．漢方薬　その他						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［２］薬理学」医学書院						
参考書							

【１年次学習科目】　　専門基礎分野　　健康支援と社会保障制度

授業科目	医療と倫理			講師	冨 永　芳 徳		
開講年次	１年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 １５時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	人間として、また医療者として、人間の生命と尊厳について学ぶ。						
授業計画	１．倫理とは １）人と人との間 ２）変わらないものと変わりゆくもの ３）心とこころ ２．生きるということ １）産まれる・生きる・死ぬ ２）生命と生活 ３）病むということ ３．愛するということ １）共に生きる ４．生命倫理 １）医の倫理と生命倫理 ２）健康と病気 ３）ケアとQOL ４）‘生きる‘と‘生かされる‘ ５．現代社会における生命の問題 １）患者の権利と自己決定 ２）病名告知（ディベート） ３）ターミナルケア・終末医療 ４）安楽死・自然死・尊厳死 ５）生殖医療 ６）脳死と臓器移植 ７）生命の問題についてのグループワーク ６．医療従事者の職業倫理 １）医療事故・医療過誤						
評価方法	筆記試験						
教科書	看護学生のための医療倫理　丸善出版						
参考書							

【１年次学習科目】　　専門基礎分野　　健康支援と社会保障制度

授業科目	健康と生活環境			講師	喜 多　義 邦		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 ３０時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	生活者の健康を保持・増進するため、健康についての考え方、健康問題の現状、健康政策および施策について学ぶ。						
授業計画	１．公衆衛生学概論 ２．健康日本２１とこれからの保健行政 ３．生活習慣病の概念と予防（高血圧・高脂血症） ４．生活習慣病の概念と予防（耐糖能異常・喫煙） ５．国民衛生の主要指標の動向（１） ６．国民衛生の主要指標の動向（２） ７．保健・医療に関する行政の動向（１） ８．保健・医療に関する行政の動向（２） ９．老人福祉保健の動向と介護保険制度（１） 10．老人福祉保健の動向と介護保険制度（２） 11．生活環境と環境保全（１）　（グループワーク） ・酸性雨、地球温暖化、オゾン層破壊 12．生活環境と環境保全（２）　（グループワーク） ・大気、水、食品、廃棄物、住環境 13．労働衛生・学校保健 14．疫学的研究法のまとめ						
評価方法	筆記試験						
教科書	松本秀明著よくわかる公衆衛生学　　金原出版 厚生の指標　国民衛生の動向　2013／2014年」厚生統計協会						
参考書							

【２年次学習科目】　　専門基礎分野　　健康支援と社会保障制度

授業科目	社会福祉と社会保障			講師	保 科　和 久		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	２単位 ４５時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	社会福祉･社会保険を中心とするわが国の社会保障制度について知り、人間がよりよく生きるための社会資源の活用方法を学ぶ。						
授業計画	1. イントロダクション 2. 社会福祉の歴史について 3. 日本国憲法と社会福祉との関係 4. 生活保護の原理・原則 5. 生活保護の理想と現実 6. 児童虐待問題について 7. 医療従事者の虐待問題(演習) 8. 障害者問題って何？ 9. 障害各法と手帳制度① 10. 障害各法と手帳制度② 11. 発達障害① 12. 発達障害②(演習) 13. 措置から自立支援法へ 14. 自立支援法から総合支援法へ 15. 少子・高齢社会とは？ 16. 老人福祉と老人医療① 17. 老人福祉と老人医療② 18. 介護保険制度① 19. 介護保険制度② 20. 障害者福祉制度と看護(演習) 21. 高齢者福祉制度と看護(演習) 22. 全体のまとめ						
評価方法	筆記試験						
教科書	山縣文治・岡田忠克編　『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房(最新版)						
参考書							

授業科目	法と看護Ⅰ			講師	嶋 村　清 志		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 １５時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	・医療のあり方を規定する法律についての知識を深める。 ・医療に関わる人の身分及び業務に関する法令を理解する。						
授業計画	１．公衆衛生と衛生法規 ２．医事法規と薬事法規 ３．予防衛生法規と保健衛生法規（前） ４．保健衛生法規（後）と環境衛生法規 ５．関連法規 ６．医療過誤 ＊筆記試験（４５分）						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令 」　医学書院						
参考書							

【２年次学習科目】　　専門基礎分野　　健康支援

授業科目	法と看護Ⅱ			講師	窪 田　好 恵		
開講年次	２年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 １５時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	看護師の法的位置づけと責任を理解し、事例や判例から看護師の注意義務および責任について学ぶ。						

授業計画

回	月／日	内　容	方　法
1		授業ガイダンス 保健師助産師看護師法について	講義・演習
2		看護行為とは 看護師の医療行為とその限界 看護業務の罰則規定と判例	〃
3		訪問看護 介護福祉士の医療行為との関係 認定看護師 専門看護師 特定行為に係る看護師の研修制度について	〃
4		医療法 個人情報保護法と看護 看護サービス管理と法	〃
5		看護業務と医療安全 罰則規定と判例 リスクマネジメント	〃
6		グループワーク発表 看護場面における安全と法	〃
7		患者の権利擁護と看護倫理 インフォームドコンセント	〃
		単位認定試験	試験

授業外学習として、法と看護Ⅰを復習し関連させて学習する。

評価方法	筆記試験 毎回授業後にレスポンスカードを記入し、提出をもって出席とする。 レスポンスカードの内容によって、単位認定試験に加点する。
教科書	『系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法規』医学書院 『私たちの拠りどころ　保健師助産師看護師法』日本看護協会出版会
参考書	

【１年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

授業科目	基礎看護学特論Ⅰ			担当教員	林　カ オ リ		
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	看護の基本となる概念、理論を学び、人間の理解とライフサイクルにおける健康への理解を深め、看護の位置づけと役割の重要性を認識する。						
授業計画	Ⅰ.看護への導入			看護の様々な概念と定義、看護の実践とはどのようなものかを学ぶ。			
	Ⅱ.健康と病気における安寧の促進			健康の概念とさまざまな健康観、健康増進に対する関わりを学ぶ。			
	Ⅲ.看護の対象とその理解			人間の特性や統合体としての捉え方、個人、家族、コミュニティ、地域社会の観点から看護の役割を学ぶ。			
	Ⅳ.看護実践のための理論的根拠			看護の歴史と関連づけながら、主な看護理論家とその理論を学ぶ。			
	Ⅴ.保健・医療・福祉システム			保健・医療・福祉の概念と基盤となる法律、サービス提供の場を知り、保健・医療・福祉チームにおける看護者の役割を学ぶ。			
	Ⅵ.看護における法的側面			看護実践における法的基盤と看護と法の関わりについて学ぶ。			
	Ⅶ.看護の展開と継続性			看護におけるチームアプローチと継続看護について学ぶ。			
	Ⅷ.看護ケアのマネジメント			看護のマネジメントとは何か、その内容と医療安全の意味を学ぶ。			
	Ⅸ.看護における倫理と価値			看護倫理に関する基礎的知識と倫理的看護実践を行うために必要な考え方を学ぶ。			
評価方法	筆記試験　100点満点（内、課題10点）の試験を行い60点以上を合格とする。						
教科書	「ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①　看護学概論」　MCメディカ出版 F・ナイチンゲール著　「看護覚え書き」　現代社						
参考書	授業で適時紹介する。						

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

授業科目	基礎看護学特論Ⅱ			担当教員	中 尾　裕 子		
開講年次	３年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義 ケーススタディ
科目概要	・看護における研究の重要性を理解し、看護研究に必要な基礎的知識、態度を身につける。 ・研究の一環としてケース・スタディを行う。 ・看護倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的思考決定の方向性を学ぶ。						
	Ⅰ　研究（10時間） 1.看護実践における研究の意義 2.看護研究の目的と分野 3.看護研究の方法とデータの収集方法 4.看護研究の進め方 5.看護研究の現状と方向 6.看護研究の対象となる人々の権利の保護 7.学会（学術集会）に参加 Ⅱ　ケース・スタディ（15時間） 1.ケース・スタディについて 2.ケース・スタディの取り組み方 3.ケース・スタディのまとめ方 4.ケース・スタディの評価 5.ケース・スタディ発表（クラス内） Ⅲ 看護における倫理と価値(4時間) 1.看護倫理とは 2.看護倫理の必要性 3.倫理的課題への対応				・看護実践における研究の意義や目的､分野について講義で学ぶ。 ・研究のプロセスでは特にテーマの決定をするにあたって､研究の動機､必要性の明確化について学ぶ。 ・パソコンによる文献検索を行い､文献の活用法、読み方を学習する。 ・研究計画の立て方を学習し、研究方法の妥当性､信憑性について学ぶ。 ・論文作成の決まりごとを学ぶ。 ・ケース・スタディのまとめ方を学ぶ。 ・複数のケース・スタディを文献検討し、論文としてのまとめ方や、論理の一貫性について学ぶ。 ・各自のテーマについて吟味し、研究計画を立て、研究の妥当性の確認をする。さらに各自のケースをまとめるにあたっては、担当教員の指導を受ける。		
評価方法	ケーススタディの提出とその内容。（評価表に基づく）50%　　筆記試験　50% 本科目の評価は、ケーススタディ、筆記試験何れも30点以上を合格とする。						
教科書	川村佐和子 他著　「ナーシンググラフィカ19　基礎看護学　看護研究」　MCメディカ出版 松本孚　　「わかりやすいケーススタディの進め方」　　照林社						
参考書							

【１年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

授業科目	基礎看護学援助論Ⅰ			担当教員	中 尾　裕 子		
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	看護活動の基本となる看護技術、安全・安楽の概念を学ぶ。 コミュニケーションの概念・方法を学び、コミュニケーション技術を養う。						
授業計画	1.看護技術の概念（4時間） 1)看護技術とは 2)看護技術の専門性と展開 3)看護技術の質の保証 4)看護技術における倫理			・看護学における看護技術の意義を理解し、実践のための学習方法を学ぶ。 ・学内実習方法と実習室の使用方法について説明を受ける。			
	2.安全・安楽（4時間） 1)安全とは 2)安楽とは			・看護における安全・安楽の概念・重要性を学ぶ。 ・看護技術の習得に向けて、安全・安楽な視点をもって看護活動を行う姿勢を養う。			
	3.コミュニケーション(6時間+45分間) 1)コミュニケーションとは 2)コミュニケーションの技術 ・プロセスレコード 3)看護場面のコミュニケーション			・コミュニケーションの基礎的知識を理解し、看護場面で患者との信頼関係を築くための技術を学ぶ。 ・プロセスレコードなどコミュニケーションの理解を深めるための方法を学ぶ。			
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①看護技術の概念と安全安楽の単元40点、②コニュニケーションの単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①は24点、②は36点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　医学書院						
参考書等							

【１年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

授業科目	基礎看護学援助論Ⅱ			担当教員	窪 田　祥 子		
開講年次	1年次 前・後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目概要	･看護における観察・記録・報告の重要性や方法を学ぶ。 ･フィジカルアセスメントの意義を学び、対象の状態を判断する方法を学ぶ。 ･バイタルサインの重要性・測定方法を学ぶ。						
授業計画	1．観察・記録・報告（6時間） １）観察の目的・方法 ２）看護記録の種類・記載方法 ３）報告の目的・方法 ２．フィジカルアセスメント(23時間) １）フィジカルアセスメントの重要性と意義 ２）フィジカルアセスメントの基本技術 （１）問診 （２）視診 （３）触診 （４）打診 （５）聴診 ３）一般状態のアセスメントと各部位のアセスメント （１）バイタルサイン測定 （２）身体計測 （３）消化器系のアセスメント （４）呼吸器系のアセスメント （５）循環器系のアセスメント **･心音を含む** （６）筋・骨格器系のアセスメント （７）神経系のアセスメント	・対象の健康状態を的確に判断するための観察技術を学ぶ。 ・看護記録の種類と記載方法を学び、看護記録の重要性を考える。 ・看護における報告の重要性・方法を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの重要性とその意義を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの方法を理解し、対象者に実施できるよう援助技術を学ぶ。 ・バイタルサイン測定の技術チェックを行う。 ・履修規程第4条2項に基づく認定資格として、バイタルサイン測定技術は、一定水準に達することとする。						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①観察記録報告の単元20点、②フィジカルアセスメントの単元80点、で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60％(①12点、②48点)以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅰ」　医学書院 「系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ」　医学書院						
参考書	その他、授業で適時紹介する。						

【１年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

授業科目	基礎看護学援助論Ⅲ			担当教員	中 尾　裕 子		
開講年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目概要	･活動と休息の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。 ･清潔と衣生活の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。						
授業計画	1.活動と休息（12時間） 1)健康生活と活動・運動の意義 2)安楽な姿勢の保持と体位の変換 3)移動・移送の援助技術 4)休息と睡眠の意義と援助 5)体位と褥瘡の関係 2.清潔と衣生活（17時間） 1)健康生活と清潔とは 2)健康障害のある人の清潔の必要性 3)清潔を保つ援助 (1) 口腔ケア (2) 全身清拭 (3) 部分清拭 ⅰ陰部洗浄 ⅱ手足浴 (4) 洗髪 4)衣服生活の意義 5)衣類の選択と着脱援助	健康生活における活動と休息の意義を理解し、活動と休息の意義を理解し、活動と休息のリズムをバランスよく保てるような援助技術を学ぶ。 ボディーメカニクスの基本原理を理解し、安楽な援助に必要な効率的な方法を学ぶ。体圧が及ぼす影響について学び褥瘡予防に必要な援助方法を学ぶ。 体位変換と移送の技術チェックを行う。 人間にとっての清潔ニーズの意義について考え、基本的な清潔の援助方法を学ぶ。 衣生活の意義を理解し快適な衣生活の援助方法を学ぶ。 全身清拭と寝衣交換の技術チェックを行う。 履修規程第4条2項に基づく認定資格として、体位変換、移送、全身清拭、洗髪、寝衣交換技術は一定水準に達することとする。					
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①活動休息の単元40点、②清潔と衣生活の単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①は24点、②は36点）以上で単位を認定する。						
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院						
参考書等	授業で適時紹介する						

【１年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">基礎看護学援助論Ⅳ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">窪 田　祥 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
前・後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習
学内実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">あらゆる健康レベルにある対象の日常生活（環境・食事・排泄）の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="3">１．環境の調整（10時間）
１）快適な生活と環境
２）療養者の生活と環境
３）病床の作り方と整備

２．食事（6時間）
１）人間にとって食事とは
２）健康な生活と食事
３）食事援助に必要な基礎知識
４）病人食の種類と特殊性
５）健康障害時の食事援助
（１）臥床患者の食事介助

３．排泄（13時間）
１）人間にとっての排泄とは
２）排泄援助に必要な基礎知識
３）排泄に関する観察と判断
４）排泄の基本的援助
（１）尿器の与え方
（２）便器の与え方
５）排泄障害のある人の援助
（１）浣腸
（２）導尿
（３）摘便</td><td colspan="4">健康的で快適な生活の場と環境について理解し、対象が安心して療養生活ができる環境について考え、対象に必要な生活環境を調整するための援助技術を学ぶ。

リネン交換の技術チェックを行う。

健康維持のための食と食生活の関連性について理解し、対象の食事・栄養状態のアセスメントの方法と援助技術を学ぶ。

人間の生命活動と排泄の重要性を人体の構造と機能から考え、対象のニードやプライバシーを配慮した援助の方法を学ぶ。
排泄が障害された時の処置としての浣腸と導尿の基本的知識を理解し対象個々の目的を達成するための技術を学ぶ。

履修規程第4条2項に基づく認定資格として、
リネン交換技術は一定水準に達することとする。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験。　本科目の筆記試験は、①環境の調整・②食事各単元30点を配点し　③排泄の単元は40点で構成する。　合計60点以上、なおかつ、各単元60％（①と②各18点、③24点）以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書等</td><td colspan="7">授業で適時紹介する</td></tr>
</table>

【１年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

授業科目	基礎看護学援助論Ⅴ			担当教員	窪 田　祥 子		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習・ 学内実習
科目概要	･感染予防の意義を理解し、原理・原則に沿った基本的な技術を習得する。 ･検査の意義及び看護師の役割を理解し、基本的な技術を習得する。						
授業計画	1.感染予防（14時間） 1)感染予防とは 2)感染予防の方法 (1) スタンダードプリコーション (2) 手洗い (3) ガウンテクニック 3)院内感染とその予防 4)**清潔操作の実際** (1) 滅菌手袋の付け外し (2) 無菌操作 5)感染性廃棄物の取り扱い 6)針刺し事故の防止策			安全を守るために必要な感染予防の意義を理解し、感染予防対策の方法を学ぶ。			
	2.検査に伴う看護（15時間） 1)診療場面における看護の役割 2)検査の種類と介助方法 3)静脈血採血方法の実際 4)赤血球沈降速度検査の実際			検査の必要性と検査場面の看護の役割を理解する。 検査時の対象へ援助と検体の正しい取扱い方法を学ぶ。			
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①感染予防の単元40点、②検査に伴う看護の単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①24点②36点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　医学書院						
参考書等	授業で適時紹介する						

【1年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">基礎看護学援助論Ⅵ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">林　カ オ リ</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習
学内実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">薬物療法における基礎知識と看護の役割を理解し、基本的な与薬の援助技術を習得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業
計画</td><td colspan="4">1.与薬とは
1）薬物療法の目的
2）薬物の作用・排泄の機序
3）与薬の原則と注意事項
4)与薬における看護の役割</td><td colspan="3">・人間にとっての薬物の影響について考え、与薬に必要な知識を理解する。また、薬物療法の援助の重要性を理解し、必要な基礎的知識を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="4">2.与薬方法
1）経口与薬
2）直腸内与薬
3）外用薬（塗布・塗擦、点眼、点入、点鼻、点耳、吸入）
4）注射法
(1）注射器・注射針・アンプルの構造と取り扱い
(2）各注射法（皮下・皮内・筋肉内注射・静脈内注射・点滴静脈内注射）の実際
(3）筋肉内注射法の実際</td><td colspan="3">・シミュレーター等を用い、様々な与薬方法の基礎的知識と方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="4">3.輸血
1）輸血の目的・適応
2）輸血の種類・方法</td><td colspan="3">・輸血の目的・適応・種類を知り、取扱い方法・実施方法を理解する。

履修規程第4条2項に基づく認定資格としては、筋肉内注射技術は一定水準に達することとする。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験　100点配点の試験を行い60点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書等</td><td colspan="7">授業で適時紹介する</td></tr>
</table>

【1年次学習科目】　専門分野Ⅰ　基礎看護学

授業科目	基礎看護学 援助論Ⅶ			担当教員	窪 田　祥 子		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目概要	･医療機器の特性・取扱いを理解し、その使用方法を学ぶ。 ･呼吸・循環を整えるための基本的な援助技術を習得する。 ･体温を調節する技術の基本的な方法を学ぶ。 ･救急法の基本的な援助技術を習得する。						
授業計画	1.ＭＥ機器の原理と実際(8時間) 1) ME機器とは 2) ME機器を使用する為の基礎知識 3) ME機器取り扱い上の留意事項 4) ME機器使用時の看護 5) ME機器の種類と使用法 (1)治療用ME機器 (2)検査用ME機器			・医療用機器の原理を知り、安全で安楽な管理が出来る方法を学ぶ。 ・学内実習では治療用・検査用 ME 機器の取り扱い方を実際に行い理解を深める。			
	2.吸入・吸引(6時間) 1)吸入とは (1) 酸素吸入の方法 (2) 噴霧吸入の方法 2)吸引とは (1)吸引の種類と方法 口腔・鼻腔内吸引 気管内吸引			・呼吸は生命に直結することを踏まえた上で、この単元では呼吸を維持するための、基本的で正確な援助技術を学ぶ。			
	3.罨法(4時間) 1) 温罨法とは 2) 冷罨法とは			・罨法の種類と効用を理解し、基本的な方法を学ぶ。			
	4.救急法と看護(11時間) 1)救急法の意義と適応 2)対象者の救急時のアセスメント 3)救急状態にある対象者と家族への援助 4)救急の基本技術 (1) 心肺蘇生法 (2) 止血法 (3) 包帯法 (4) 異物の除去			・救急時の対応は対象の生命に影響するため身体的、心理的変化を理解し、対応できる基礎的知識、技術を学ぶ。			
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①ME機器、吸入・吸引、罨法の単元60点、②救急法看護の単元40点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①は36点、②は24点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院						
参考書等	授業で適時紹介する						

【1年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

授業科目	基礎看護学 援助論Ⅷ			担当教員	中 尾　裕 子		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	**授業形態**	講義・演習
科目概要	対象の情報分析から問題状況を抽出し、問題解決に向かう看護を展開するための方法を習得する。						
授業計画	Ⅰ 看護過程 1.問題の発生と対処行動 2.看護過程とは 1)概念と歴史 2)問題解決過程との比較 3)看護理論との関連 4)ｸﾘﾃｨｶﾙｼﾝｷﾝｸﾞ・科学的思考 3. 倫理観と価値観 Ⅱ 情報収集 1.情報源 2.情報収集方法 3.目的をもった情報収集 4.情報収集の枠組みの理解 （ゴードンの機能的健康パターン） Ⅲ 情報整理(クラスタリング) 1.情報整理 2.主観的・客観的情報の使い分け 3.分析、解釈、判断 1)分析の視点 2)情報の意味 3)推論 Ⅳ 問題状況の抽出と統合 1.看護診断との関連 （診断名、診断指標、関連因子） Ⅴ 解決策の立案 1.看護上の問題と目標 2.期待される結果 3.具体策の立案 4.評価 5.１～４の一貫性・関連性 Ⅵ具体策の立案 1.具体策 2.ＳＯＡＰ記録 Ⅶ事例展開	自ら考えて看護を行う看護師になるために、思考過程としての看護過程を学ぶ。（講義・演習） 看護過程は患者の身体・精神・スピリチュアリティに対して全人的に焦点をあてている。健康問題が患者の安寧や自立にもたらす影響を理解し、健康の保持・増進・予防につながる看護介入が思考できる力を養う。（講義・演習） 事例展開を通して、対象理解とクリティークする力を養う。（演習）					
評価方法	筆記試験　100点配点の試験を行い60点以上で単位を認定する。						
教科書	1.系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2.古橋洋子著「ｸﾘﾆｶﾙｽﾀﾃﾞｨ・ﾌﾞｯｸ１患者さんの情報収集ガイドブック」ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社 3.新道幸恵著「ポケット版基準看護計画」　照林社 4.高木永子他著「看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント」　学研 5.高久史麿　治療薬マニュアル2019　医学書院						
参考書	エレインNマリーブ著 林正健二・淺見一羊他訳 「人体の構造と機能」　医学書院 江口正信他著　「検査値早わかりガイド」　サイオ出版						

【１年次学習科目】　　専門分野 Ⅱ　　成人看護学

授業科目	成人看護学特論			担当教員	左 子　寿 喜 子		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 30時間	授業 形態	講義　・演習
科目概要	青年期から向老期と幅広い成人の特徴と成人看護の役割を学び、社会で生活する成人の健康の保持増進・疾病予防のための看護を学ぶ。						
授業計画	Ⅰ．成人の特徴と生活 1.ライフサイクルからみた成人 2. 成人期の発達課題 3. 青年期の特徴 4. 壮年期の特徴 5. 向老期の特徴			ライフサイクルにおける成人期の位置づけを明確にし、時代による変遷と発達の概念、発達課題を学ぶ。 成人各期の、身体的・精神的・社会的特徴を理解した上で、成人期にある人の理解を深める。 （講義・グループワーク）			
	Ⅱ．成人保健の動向と保健行動 1.成人の生活 2.成人期にある人の保健の動向 3.成人期にある人の健康と施策 4.生活習慣と健康障害 5.生活ストレスと健康障害 6.性と健康障害 7.職業・労働と健康障害			成人を取り巻く社会及び保健の動向と施策を知る。			
	Ⅲ.成人教育の概念 1.成人の学びの特徴 2.エンパワメント 3.セルフエフィカシー			保健行動へのアプローチ法を学び、成人期の健康の保持・増進および疾病予防への理解を深める。 （講義） 日常生活行動や環境が成人期にある人の健康に及ぼす影響を知り、成人期の健康の保持・増進及び疾病予防ために必要な看護援助のあり方と方法を理解する。（講義・演習）			
評価方法	筆記試験(100点満点　演習の取り組みの点数も含む) なお、60%(60点)以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［１］　成人看護学総論」　医学書院						
参考書	「 国民衛生の動向・厚生の指標 2019/2020」　厚生労働統計協会						

【1年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅰ			担当教員	後 村　敦 子		
開講年次	１年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	経過別看護を学習し、健康レベルに応じた看護に必要な知識と技術を学ぶ。						
授業計画	Ⅰ慢性期の健康障害をもつ人の看護(6H) 1.慢性病の病態とその特徴 2.慢性病との共存過程を支える看護 3.エンパワーメントエデュケーション 4.セルフケアマネジメントエデュケーション 5.コンプライアンスを高める看護 6.自己効力感を高める看護			不可逆的な変化をもたらし、完全治癒が望めない状態にある人の身体的・社会的・精神的苦痛を理解し、症状コントロールや合併症・二次障害の予防のために必要となる看護および自己管理について学ぶ。（講義・演習）			
	Ⅱ終末期の健康障害をもつ人の看護(8H) 1.終末期医療の概念と現状 2.終末期の身体・心理・社会的特徴 3.緩和ケアの実際と基本技術 4.家族アセスメントと看護援助			死は避けることのできない現実であり、それぞれの人の人生観が異なるようにその人にとって特有なものである。尊厳ある生命の完結について考え、終末期の人の全人的苦痛を理解する。また、大切な人生最期のときを、苦痛や苦悩にさいなまれることなく、家族とともに有意義に送れるように終末期の看護のあり方を学ぶ。（講義・視聴覚教材・演習）			
	Ⅲ放射線療法と看護(6H+3H) 1.放射線の原理と基礎知識 2.放射線診断と治療 3.放射線防護 4.放射線検査・治療時の看護			診断や治療において放射線医学は目覚ましい進歩とともにその役割も重大となっている。ここでは、放射線の原理と治療への応用、放射線看護の概念を学ぶ。（講義）			
	Ⅳリハビリテーションと看護(6H) 1.障害に対する考え方 2.リハビリテーションとは 3.ノーマライゼーションとは 4.医療におけるリハビリテーションの流れ 5.リハビリテーションチームアプローチ 6.障害を持ちながら生活する人への看護			リハビリテーションとは障害を持つ人の社会的自立と人間らしく生きる権利の回復を図るために、機能訓練を図ることである。ここでは、リハビリテーションと看護の概念、および理学療法の基礎を学ぶ。（講義・演習）			
評価方法	筆記試験 本科目の筆記試験は、Ⅰ慢性期の健康障害をもつ人の看護(20%)、Ⅱ終末期の健康障害をもつ人の看護(25%)、Ⅲ放射線療法と看護(35%)、Ⅳリハビリテーションと看護(20%)で構成する。 なお、各単元60%（Ⅰは12点、Ⅱは15点、Ⅲは21点、Ⅳは12点）以上を合格とする。						
教科書	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ　「系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学[１]」　医学書院 Ⅲ　「新体系　看護学全書　別巻３　放射線診療と看護」　メヂカルフレンド社 Ⅳ　「系統看護学講座　専門Ⅱ　運動器　成人看護学[１０]」　医学書院						
参考書							

【1年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　成人看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">成人看護学援助論Ⅱ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">後 村　敦 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習
学外見学</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">急性期の健康障害および手術など侵襲的な治療を受ける人の看護に必要な知識と技術を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="3">Ⅰ急性期の健康障害を持つ人の看護
（１９時間）

1. 健康の急激な破綻への理解
2. 心理面・身体面への支援
3. 呼吸機能を回復維持するための看護
4. 循環機能を回復維持するための看護
5. 栄養を回復維持するための看護
6. クリティカルケア
7. 周手術期（術前・術後）の看護

Ⅱ生体侵襲を受ける人の看護
（１０時間）

1. 周手術期（術中）の看護
2. 手術室の見学
1）手指消毒・ガウンテクニック
2）手術機械の展開と清潔操作
3）患者体験・手術体位と固定・保温
4）手術器具の洗浄滅菌</td><td colspan="4">急性期の概念を理解する。生命の危機状態にある患者の身体的・心理的・社会的状態を理解し、生命の維持を図るための観察、アセスメントの方法を学ぶ。また、急性期の主要症状に対する処置および看護を学ぶ。（講義・演習）

生体の侵襲について理解し、周手術期および侵襲からの早期回復に必要な看護と安全管理について学ぶ。（講義・演習）

手術室の環境、生体侵襲を受ける人の看護が行われている場を見学し、周手術期看護の実際を学ぶ。（手術室見学・演習）</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験
本科目の筆記試験は、Ⅰ急性期の健康障害を持つ人の看護(60%)、Ⅱ生体侵襲を受ける人の看護(40%)で構成する。
なお、各単元60%（Ⅰは36点、Ⅱは24点）以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ　「系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学[１]」　医学書院
Ⅲ　「新体系　看護学全書　別巻３　放射線診療と看護」　メヂカルフレンド社
Ⅳ　「系統看護学講座　専門Ⅱ　運動器　成人看護学[１０]」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　成人看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">成人看護学援助論Ⅲ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">左 子　寿 喜 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>2年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">循環機能障害及び生体防御機能障害を持つ人の看護に必要な知識と技術を学び、人間の生活反応と健康レベルに応じた看護援助を理解する。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">Ⅰ循環機能障害を持つ人の看護
（14時間）
1.循環機能
2.循環機能と生命・生活
3.循環機能障害に伴う症状と看護
4.検査・治療に伴う看護
5.主要疾患の看護
（高血圧、心不全、狭心症、心筋梗塞）

Ⅱ生体防御機能障害を持つ人の看護
（15時間）
1.生体防御機能
2.生体を攻撃する因子・要因
3.生体防御機能障害の症状と看護
4.検査・治療に伴う看護
5.主要疾患の看護
（白血病、悪性リンパ腫、AIDS、自己免疫疾患）</td><td colspan="3">心臓は循環器系の要にあたる臓器であり、ポンプの働きを行っている。心臓や血管の機能は生命維持に直結しており、障害を生じると生命の危機となる。循環のプロセス及び循環機能障害の概念を理解し、主要症状や主要疾患における看護援助を学ぶ。（講義）

人間には異物から人体を守る生体防御機能が備わっている。この機能に障害を生じると、様々な健康障害が引き起こされる。生命・健康を維持するための生体防御のプロセス及び生体防御機能障害の概念を理解し、主要症状や主要疾患における看護援助を学ぶ。（講義・演習）</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験
本科目の筆記試験は、Ⅰ循環機能障害を持つ人の看護（50%）、Ⅱ生体防御機能障害を持つ人の看護（50%）、で構成する。
なお、各単元60%（Ⅰは30点、Ⅱは30点）以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">Ⅰ「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［３］　循環器」　医学書院
Ⅱ「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［４］　血液・造血器」　医学書院
Ⅱ「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[11]　ｱﾚﾙｷﾞｰ・膠原病・感染症」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">「人体の構造と機能」エレインＮマリーブ著　医学書院</td></tr>
</table>

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅳ			担当教員	左 子　寿 喜 子		
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	内部環境調節機能及び呼吸機能に障害を持つ人の看護に必要な知識と技術を学び、事例を用いた看護過程の展開によって、対象の問題解決を可能にする看護援助を理解する。						
	Ⅰ内部環境調節機能障害を持つ人の看護 （17時間） 1. ホルモンの機能 2. ホルモン分泌異常・障害に伴う症状 3. 治療に伴う看護 4. 糖代謝障害の看護の実際 ・薬物療法と看護 ・食事療法と看護 ・運動療法と看護			生命の源となるネルギー代謝は内部環境調節機能によって維持されている。内部環境調節機能を障害する要因を把握し、それを取り除く治療を支援するとともに、内部環境を維持するためのセルフケアを援助する看護を学ぶ（講義・演習）			
	Ⅱペーパーペイシェントで学ぶ糖尿病患者の看護			慢性期の看護を活用し、糖尿病患者に必要な看護援助の実際および患者教育の方法を学ぶ。 糖尿病患者の事例を展開する（演習）			
	Ⅲ呼吸機能障害を持つ人の看護 （12時間） 1. 呼吸機能 2. 呼吸機能障害と日常生活 3. 主要症状と看護 4. 検査・治療に伴う看護 5. 主要疾患の看護の実際 （気管支喘息、肺癌、慢性閉塞性肺疾患、気胸）			呼吸器は、呼吸を行う機能上の特性により、感染や環境や生活習慣の影響を受けやすく、多臓器疾患との合併症も起こりやすい。ここでは、呼吸のプロセス及び呼吸機能障害の概念を理解し、呼吸器疾患を持つ患者の特徴を踏まえたうえで、主要症状や主要疾患における看護を学ぶ。（講義・演習）			
評価方法	筆記試験 本科目の筆記試験は、Ⅰ内部環境調節機能障害を持つ人の看護（60%）、Ⅲ呼吸機能障害を持つ人の看護（40%）、で構成する。 なお、各単元60%（Ⅰは36点、Ⅲは24点）以上を合格とする。						
教科書	Ⅰ・Ⅱ 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［６］　内分泌・代謝」　医学書院 Ⅲ 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［２］　呼吸器」　医学書院						
参考書	「人体の構造と機能」エレインＮマリーブ著　医学書院						

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅴ			担当教員	後 村　敦 子		
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	消化・吸収・代謝、排泄機能に障害のある人の看護に必要な知識と技術を学ぶ。また、消化・吸収・代謝障害がある人の看護については、事例を用いた看護過程の展開によって、対象の問題解決を可能にする看護援助を理解する。						
授業計画	Ⅰ消化･吸収･代謝機能障害を持つ人の看護（19時間） 1. 消化・吸収障害に伴う症状と看護 2. 経管栄養の実際と看護 3. 主要疾患の看護 （潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病、胃癌） 4. 代謝障害に伴う症状と看護 5. 治療や検査に必要な看護 6. ドレナージと看護			食物を消化して栄養素に分解・吸収し、不要な物質を体外に排出するまでの過程で、各器官がどのように機能するか、またそれらが障害された時に起こる症状・生活上の支障とアセスメントの視点を理解し、必要な看護と方法を学ぶ。また、検査や治療に伴う患者の不安や苦痛、危険性を理解し、検査や治療が適正に受けられるための準備や処置について学ぶ。（講義・演習）			
	Ⅱペーパーペイシェントで学ぶ胃切除術後の看護			急性期・生体侵襲を受ける人の看護を活用し、胃全的術患者の事例を展開する。また、事例展開を通して胃切除術を受けた患者に必要な看護援助の実際を学ぶ。（演習）			
	Ⅲ排泄機能障害をもつ人の看護（10時間） 1. 排泄機能障害の症状と看護 2. 排泄経路に障害のある人の看護 3. 腎臓機能に障害のある人の看護 4. 透析療法を受ける人の看護 5. 排泄経路に変更を生じた人の看護（ストーマ造設患者の看護）			腎・泌尿器系は、尿の生成・排泄という機能を基本に持ち、体液の恒常性維持やタンパク代謝産物の排泄という身体にとって重要な働きを担う。排泄（腎・膀胱）のプロセス及び排泄機能障害の概念を理解し、腎・泌尿器疾患をもつ患者の特徴を踏まえ、主要症状や主要疾患における看護を学ぶ。また、治療において排泄経路の変更を余儀なくした患者への看護の実際を学ぶ。（講義・演習）			
評価方法	筆記試験 本科目の筆記試験は、Ⅰ消化・吸収・代謝機能障害を持つ人の看護（60%）、Ⅲ排泄機能障害を持つ人の看護（40%）、で構成する。 なお、各単元60%（Ⅰ36点、Ⅲは24点）以上を合格とする。						
教科書	Ⅰ・Ⅱ　「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［５］　消化器」　医学書院 Ⅰ・Ⅱ　「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論」　医学書院 Ⅲ　「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［８］　腎・泌尿器」　医学書院						
参考書	「人体の構造と機能」エレインＮマリーブ著　医学書院						

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅵ			担当教員	左 子　寿 喜 子		
開講年次	2年次 前・後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	１単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	運動及び感覚・認知機能に障害を持つ人の看護に必要な知識と技術を学び、感覚・認知機能障害では事例を用いた看護過程の展開によって、対象の問題解決を可能にする看護援助を理解する。						
授業計画	Ⅰ運動機能障害を持つ人の看護 （10時間） 1.運動機能と生活 2.脊椎や関節に障害がある患者の看護 3.神経に損傷がある患者の看護 4.骨に障害を持つ患者の看護 5.治療を受ける患者の看護(演習)				人間は運動を行う各器官の働きによって姿勢や肢位をとったり、動作や運動を行う。運動機能が障害されることによって日常生活や社会生活が困難となる。また、運動機能の低下は生体の諸機能も低下させる。ここでは、骨折や神経損傷の治療に必要となる看護の知識と技術を学ぶ。また、患者のセルフケアや社会活動を支え、自己実現を支援する看護を学ぶ。（講義・演習）		
	Ⅱ感覚･認知機能障害を持つ人の看護 （19時間） 1.感覚・認知機能障害 2.意識障害患者の看護 3.高次脳機能障害患者の看護 4.脳血管障害患者(脳出血、脳梗塞)麻痺のある患者の看護 5.開頭手術を受ける患者の看護 6.感覚器に障害をもつ人の看護 7.脳腫瘍患者の看護				神経系の器官は、人間が生活活動および生命活動を営むために重要な器官である。特に脳は生命の中枢であり障害を受けると生命維持にかかわる機能の重篤な異常が起こりやすい。ここでは、感覚･認知機能障害が及ぼす身体的・精神的・社会的影響や出現する症状を理解し、症状や治療に伴う看護を学ぶ。（講義・演習）		
	Ⅲ.ペーパーペイシェントで学ぶ脳腫瘍患者の看護				看護過程の思考を活用しながら、脳腫瘍患者の事例を通して、脳腫瘍の患者の看護を学ぶ。（演習）		
評価方法	筆記試験 本科目の筆記試験は、Ⅰ運動機能障害をもつ人の看護（40%）、Ⅱ感覚・認知機能障害を持つ人の看護（60%）、で構成する。 なお、各単元60%（Ⅰは24点、Ⅱ36点）以上を合格とする。						
教科書	Ⅰ　「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[10]　運動器」　医学書院 Ⅱ　「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[７]　脳・神経」　医学書院						
参考書	エレインNマリーブ著　「人体の構造と機能」　医学書院						

【1年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　老年看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">老年看護学特論</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">神 山　恵 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">老年期にある人の特徴と高齢者を取り巻く社会の動向を理解し、老年看護の目標と役割について学ぶ。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">Ⅰ 高齢者（老年期）の理解
1.ﾗｲﾌｻｲｸﾙからみた老年期
2.加齢と老化
3.高齢者の生きてきた時代背景
4.老年期の発達課題
5.高齢者の身体的・精神的・社会的特徴</td><td colspan="4">ライフサイクルにおける老年期の位置付けを明確にし、老年期を生きる人の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。また老化による身体機能の変化の理解が重要であるため「老人擬似体験」を取り入れ、高齢者の思いに近づけるようにする。（講義・演習）</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">Ⅱ 超高齢社会の保健・医療・福祉
1.高齢者の統計的特徴
2.高齢者を支える制度
3.高齢者と家族
4.高齢者の人権</td><td colspan="4">わが国の老年人口の増加にはどのような特徴があるのか、高齢化が社会生活に与える影響や高齢者自身の生活にどのような影響が現れているのか理解する。さらに、高齢者が安心して豊かに老後を送ることができるための支援システムを理解する。それらを踏まえて超高齢社会がもたらす保健・医療・福祉の課題と共に連携の重要性について学ぶ。（講義）</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">Ⅲ 介護保険制度
1.制度創設の背景と目的
2.給付対象とサービス内容
3.サービス利用の手続き</td><td colspan="4">介護保険法の目的、用語、給付のしくみ、サービスの利用方法、ケアプラン等概要を学ぶ。さらに介護支援専門員の役割と機能について学ぶ。（講義）</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験（100点満点　うち10点はレポート）</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「ナーシング・グラフィカ老年看護学①　高齢者の健康と障害」　メディカ出版</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　老年看護学

授業科目	老年看護学援助論			担当教員	神 山　恵 子		
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 45時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	加齢に伴う高齢者に起こりやすい日常生活の障害と健康障害の特徴を学び、高齢者が日常生活を取り戻せるために必要な援助と、安らかな死への援助を理解する。						
	Ⅰ 高齢者看護の基本的技術 1. コミュニケーション 2. フィジカルアセスメント 3. バイタルサイン			高齢者は症状の発現の仕方が非定型的なことが多く個人差も大きい。また合併症も起こしやすい。全身の状態を的確に系統的に把握するための観察及びアセスメントの方法を学ぶ。　（講義）			
	Ⅱ 高齢者の日常生活援助技術 1. 食生活の援助 2. 清潔の援助 3. 排泄の援助 4. 活動・休息・睡眠への援助 5. 身体可動性障害予防への援助 6. 転倒予防への援助			老化に疾病が伴って起こりやすい日常生活の障害にはどのようなものがあるか、どのような過程で起こってくるのかを学ぶ。老年看護技術の特徴と、実施方法、留意点について学び、演習で理解を深める。（講義・演習）			
	Ⅲ 高齢者に特有の健康障害への援助 1. 認知症 2. 大腿骨頚部骨折 3. 老人性白内障 4. パーキンソン病 5. 痛み・しびれ・めまい・褥瘡			高齢者特有の疾患に目を向け、病態を理解するとともに、廃用性症候群の予防や残存機能の維持、認知症症状の予防など看護を学ぶ。　また、高齢者に多い症状への看護について学ぶ。（講義）			
	Ⅳ 治療処置を受ける高齢者への看護 1. 診察・検査・入院・退院 2. 薬物療法・手術療法 3. 終末期			高齢者の入院は生活活動の変化により様々な問題が生じる。そこで入院生活を余儀なくされる高齢者の心理や行動を理解し、入院生活への適応を支援するために必要な看護を学ぶ。また、終末期にある高齢者や家族を支える看護を学ぶ。（講義・演習）			
	Ⅴ 高齢者の生活環境と健康 1. 高齢者の生活環境			環境は時として日常の生活活動の制約条件となり、高齢者の自立を阻害する要因となる。そこで、高齢者の自立を支援し日々の生活が狭小化されることがなく、自分らしく過ごせる環境を演習を通して考える。（講義・演習）			
評価方法	筆記試験（100点満点　うち10点はレポート）						
教科書	「ナーシング・グラフィカ老年看護学①　高齢者の健康と障害」　メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ老年看護学②　高齢者看護の実践」　メディカ出版						
参考書等							

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　小児看護学

授業科目	小児看護学特論			担当教員	正 木　康 子		
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	小児期を生きる子どもの特徴と成長発達、子どもを取り巻く環境（家族、社会）と子どもの健康および権利について学び、小児看護の特徴と役割についての理解を深める。						
	Ⅰ　子どもとは 1. 小児看護対象 2. ライフサイクルからみた小児期 3. 小児看護の変遷			ライフサイクルにおける小児期の特徴やその時期を生きる子どもとは何かについて考え、身近にいる「子ども」に対する意識を高める。　（講義）			
	Ⅱ　子どもの成長発達と生活 1. 成長発達とは 2. 新生児 3. 乳児 4. 幼児 5. 学童・思春期 6. グループ発表			成長発達の原則や基本的な発達の順序性、および成長発達の評価方法について学ぶ。同時に小児各期を生きる子どもの発達上の課題を踏まえた健康な生活のあり方と養護の方法を学ぶ。またグループ学習ではまちの中の子どもがどのように生活しているかなどテーマを決定し調査することで子どもに興味関心を向ける。（講義、視聴覚教材、グループ学習）			
	Ⅲ　社会の中の子ども 1. 子どもと家族 2. 子どもに関する諸統計 3. 母子保健行政と施策 4. 学校保健と予防接種 5. 子どもと家族をめぐる諸問題 6. テーマ別討論			子どもの健やかな成長発達に関わる家庭のあり方、母子関係および親子関係を中心とした家族の役割について理解する。また、 統計的な視点から現代の日本社会における子どもの現状を捉え、子どもと家族を取り巻く社会とその役割について学ぶ。さらにひとりの人間として子どもを認識し、その権利について考える。子どもと家族をめぐる諸問題を取り上げ、多面的に意見を出し合い考える。（講義、グループ学習、討論）			
	Ⅳ　小児看護とは 1. 小児看護の捉え方 2. 小児看護の役割 3. 子どもの権利と小児看護における倫理 4. 小児看護の課題			子どもの健やかな成長発達を促進する小児看護の特徴と役割を理解し、これからの小児看護に求められるものについて考える。（講義）			
評価方法	筆記試験（90%）+レポート課題（10%）						
教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　小児看護学[1]」　医学書院						
参考書等							

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　小児看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">小児看護学援助論Ⅰ
（疾患・治療）</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">岩 井 義 隆</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>2年次
前・後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>1単位
15時間</td><td>授業
形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">子どもの生理的な特徴と、子どもに出現しやすい疾患の病態生理、主な症状、治療について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">Ⅰ 子どもの身体的、生理的特徴
1.子どもの生理的特徴
2.子どもの病的状態とその徴候

Ⅱ 子どもにみられる主な健康障害
1.染色体異常・胎内環境により発症する先天異常
2.新生児の疾患
3.代謝性疾患
4.内分泌疾患
5.免疫系・アレルギー・リウマチ性疾患
6.小児の感染症
7.呼吸器疾患
8.循環器疾患
9.消化器疾患
10.血液・造血器疾患
11.悪性新生物
12.腎・泌尿器及び生殖器系疾患
13.神経疾患
14.運動器疾患
15.感覚器疾患
16.精神疾患</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験（100％）</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学[2]」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書等</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　小児看護学

授業科目	小児看護学援助論Ⅱ（看護）			担当教員	正 木　康 子		
開講年次	2年次 前･後期	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 45時間	授業形態	講義･演習
科目概要	健康障害が子どもの心身の発達や家族に及ぼす影響を理解し、発達段階･健康段階に応じた適切な援助の方法を学ぶ。 小児看護に必要な基本的看護技術を習得する。						

Ⅰ　健康障害が子どもと家族に及ぼす影響 Ⅱ　病院における子どもと家族への看護 1.外来における看護 2.子どもの入院生活と看護	子どもの健康障害の特徴と、健康障害が子どもの心身の発達や家族に及ぼす影響を理解する。病院という場の特性と、子どもと家族に及ぼす影響、看護の継続性を理解する。　（講義）
Ⅲ　さまざまな健康段階にある子どもと家族への看護 1.慢性期にある子ども(気管支喘息、ネフローゼ症候群 など) 2.急性期にある子ども(川崎病、肺炎 乳児下痢症 など) 3.終末期にある子ども（白血病など ビデオ学習を含む) 4.看護過程の展開	健康を障害された子どもと家族の健康の回復・保持・増進、および成長発達を促進するために必要な援助を理解する。 発達段階、健康段階、疾患、症状、治療を関連させて学習し、統合的な理解を深める。 事例をもちいて看護過程の展開を行い、子どもが対象であるからこそ大切にしたい看護のポイントを理解する。（講義、演習、視聴覚教材）
Ⅳ 治療・処置を受ける子どもと家族への看護 1.隔離、活動制限が必要な子ども 2.手術を受ける子ども 3.救急処置が必要な子ども	治療・処置を受ける子どもが置かれる状況や、認知機能が未発達であることから生じる問題を軽減するための看護を理解する。周手術期や救急処置などの各領域の既習内容を想起し、子どもの特徴を踏まえて理解を深める。（講義、視聴覚教材）
Ⅴ 低出生体重児の看護 1.低出生体重児とは 2.低出生体重児に必要な環境 3.低出生体重児の看護	低出生体重児の特徴を理解し、生命を守り、成長発達を促すために必要な看護を理解する。（講義）
Ⅵ 心身に障害のある子どもと家族への看護 1.障害児の定義 2.成長発達を促進する看護 3.重症心身障害児の看護	障害児に対する認識を深め、障害児とノーマライゼーションについて考える。また障害児とその家族の援助の方法を、支援ネットワークを含め広く学ぶ。中でも実習で接する重症心身障害児への理解を深める。（講義、視聴覚教材）
Ⅶ 小児看護技術 バイタル測定,身体計測,与薬,輸液管理,抑制,酸素吸入,吸引,保育器の取り扱いなど	小児看護技術の特徴と実施方法、留意点について学ぶ。小児に特徴的な看護技術は演習を行う。 （講義、視聴覚教材、演習）

評価方法	筆記試験（90%）+レポート課題（10%）
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学[1]」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論　小児看護学[2]」医学書院
参考書等	

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　母性看護学

授業科目	母性看護学特論			担当教員	宇 野　三 奈 子		
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	母性の特性と健康に影響を及ぼす諸因子及び動向を学び、母性の健康保持・増進に向けての看護の役割を学ぶ。						
授業計画	Ⅰ　母性看護の基本的概念 1　母性看護の中心概念 2　リプロダクティブヘルスに関する概念 3　性の多様性 4　リプロダクティブヘルスに関する動向			母性看護の中心概念を理解し、幅広くリプロダクティブヘルスに関する知識を得る。また、性の多様性や社会の動向をふまえ、母性看護の役割と意義を学ぶ。（講義・グループワーク）			
	Ⅱ　リプロダクティブヘルスに関する支援 1　子どもと女性に関する法律 2　子育て支援 3　暴力・虐待の防止に関する支援 4　周産期医療システム			リプロダクティブヘルスに関する法律・施策等の社会のしくみについて理解し、母性看護の役割と意義を学ぶ。（講義）			
	Ⅲ　生殖に関する生理と健康問題 1　生殖器の構造と機能 2　第二次性徴と性周期 3　妊娠のメカニズム 4　月経異常 5　性感染症 6　女性のライフサイクル各期の諸問題			生殖器の構造と機能を再確認し、母性看護の主たる対象である女性特有の身体の変化について学ぶ。また、生殖器に関する疾患やライフサイクル各期の諸問題を理解し、看護のあり方を学ぶ。（課題学習・講義）			
	Ⅳ　リプロダクティブヘルスに関する倫理 1　人工妊娠中絶 2　出生前診断 3　生殖補助医療			現代社会の妊娠・出産に関する倫理的諸問題について考え、対象の自己決定を支える看護のあり方について学ぶ。（講義・グループワーク）			
評価方法	筆記試験80点＋提出課題・グループワーク参加20点						
教科書	ナーシンググラフィカ　母性看護学①　「概論・リプロダクティブヘルスと看護」						
参考書	「国民衛生の動向」　厚生統計協会						

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　母性看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">母性看護学援助論Ⅰ
（各期の生理・異常）</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">小 林　昌</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>2年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>1単位
15時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">妊娠、分娩、産褥、胎児の生理と経過及び疾病の病態、原因、症状、検査、処置について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">Ⅰ　妊娠、分娩、産褥の生理と経過
1　妊娠の生理と経過
1)妊娠の生理
2)妊婦の健康診査
3)胎児の発育・健康状態
2　分娩の生理と経過
1)分娩の三要素
2)分娩経過
3)分娩機転
3　産褥の生理と経過
1)退行性変化
2)進行性変化
Ⅱ　妊娠、分娩、産褥の異常
1　妊娠の異常
1)妊娠期間の異常
2)妊娠に伴う異常
3)母体合併症・感染症
2　分娩の異常
1)分娩の三要素の異常
2)胎児機能不全
3)異常出血・産科手術
3　産褥の異常
1)出血・感染症
2)産後うつ病
Ⅲ　生殖補助医療
1　遺伝相談
2　不妊治療</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験（100%）</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">ナーシンググラフィカ 母性看護学②　「母性看護の実践」</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【2年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅱ（看護）			担当教員	宇 野　三 奈 子		
開講年次	2年次後期	選択必須	必須	単位数時間数	2単位45時間	授業形態	講義・演習
科目概要	妊娠期・分娩期・産褥期における母性の特性を理解し、対象の健康の保持増進、疾病の予防、健康への回復の過程における看護の目的・方法を学習する。 新生児が胎外生活に適応し、順調に成長発達するために必要な看護を学習する。 母性看護に必要な基本的看護技術を習得する。						
授業計画	Ⅰ　妊娠期の看護 1.妊婦の看護と保健指導 2.ハイリスク妊婦の看護と保健指導			妊婦の身体的、心理・社会的特徴を理解し、妊婦および家族がセルフケア行動をとることができるように必要な看護を学ぶ。妊婦に起こりやすい異常の看護について学ぶ。（講義）			
	Ⅱ　分娩期の看護 1.産婦の看護と保健指導 2.ハイリスク産婦の看護			産婦の身体的、心理・社会的特徴を理解し、産婦が主体的に出産に臨み安全・安楽に分娩するために必要な看護を学ぶ。　産婦に起こりやすい異常の看護について学ぶ。（講義、視聴覚教材）			
	Ⅲ　産褥期の看護 1.褥婦の看護と保健指導 2.ハイリスク褥婦の看護と保健指導			褥婦の身体的、心理・社会的特徴を理解し、健全な母子関係の早期確立への看護を学ぶ。褥婦が主体的に産褥期間の諸問題を乗り越え、育児や新しい人間関係が確立できるために必要な看護を学ぶ。褥婦に起こりやすい異常の看護について学ぶ。（講義）			
	Ⅳ　新生児の看護 1.正常新生児の生理 2.正常新生児の看護 3.ハイリスク新生児の看護			早期新生児の健康状態の観察方法、健康の保持増進のための看護について学ぶ。（講義、視聴覚教材）			
	Ⅴ 母性看護の技術 1.妊娠期(児心音の測定、腹囲・子宮底長の測定、レオポルド触診、内診の介助) 2.分娩期（補助動作、呼吸法） 3.新生児期（身体計測、沐浴、臍処置）			母性看護技術の特徴、方法、留意点について学ぶ。（演習）			
	Ⅵ 看護過程の展開			事例を基に早期産褥期の看護過程を展開する。　（グループ演習、個人演習）			
評価方法	筆記試験80点＋小テスト20点						
教科書	ナーシンググラフィカ 母性看護学②　「母性看護の実践」 ナーシンググラフィカ 母性看護学③　「母性看護技術」						
参考書							

【１年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　精神看護学

授業科目	精神看護学特論			担当教員	田 井 中　彰 二		
開講年次	１年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	心の健康に影響する要因を発達過程および現代社会の構造と適応、人間関係の面からとらえ、精神看護の役割についての理解を深める。						
	Ⅰ精神看護学の概念 1. 精神看護学の概念 2. 精神看護学の変遷 3. 精神看護学の目的と対象 4. 精神看護の役割と機能			精神看護の定義・場・対象・役割・機能について理解する。（講義）			
	Ⅱ心の健康 1. 心の働き 2. 心の健康・不健康 3. 心の健康と環境			こころの健康を理解し、それに影響を及ぼす因子を理解する。（講義）			
	Ⅲライフサイクルと心の発達 1. エリクソンの発達過程 2. ライフサイクルと心の発達			人間の成長発達と各期における課題を理解する。（講義）			
	Ⅳ生活の場における心の健康 1. ストレスと対処方法について 1)ストレスとは 2)フラストレーションと自我防衛機制 3)ストレスコーピング 2. 危機状況と介入方法 1)危機とは 2)危機のプロセス 3)危機介入 3. 生活の場における精神保健 1)家庭における精神保健と諸問題 2)学校における精神保健と諸問題 3)職場における精神保健と諸問題 4)地域社会における精神保健と諸問題			社会生活が心の健康に及ぼす影響を理解し、現状の問題や課題を考え、その中で看護師の果たす役割を理解する。（講義・演習）			
	Ⅴ精神医療・保健・福祉の変遷と今後の展望 1. 精神医療・保健・福祉の歴史的変遷と課題 2. 地域ケアへと広がる今後の展望			精神看護を取り巻く医療・保健・福祉の変遷を理解し、今後の課題・展望について学ぶ。（講義）			
	Ⅵ人権擁護とノーマライゼーション 1. 精神看護と倫理 1)ノーマライゼーション 2)インフォームドコンセント 3)アドボカシー			精神看護に必要な人権擁護の理念を理解し、対象者の生活と取り巻く環境について学ぶ。（講義・演習）			
評価方法	100点の試験を行う、60％(60点)以上を合格とする(レポート提出を含む)						
教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学[1]　精神看護の基礎」　医学書院 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学[2]　精神看護の展開」　医学書院						
参考書							

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　精神看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">精神看護学援助論Ⅰ
（精神機能の障害）</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">青 木　治 亮</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>２年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>1単位
15時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。
・精神の正常と異常の概念を理解し、その診断法を学ぶ。また、精神障害の各症状および主な精神疾患の診断や治療法を学習し、生活行動への影響を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">Ⅰ　精神障害者の理解
1. 精神医療の歴史
2. 精神障害者の現状
3. 精神疾患の捉え方
4. 精神障害の原因、分類

Ⅱ　精神障害者の抱える症状の理解
1. 精神症状
2. 中枢神経症状

Ⅲ　精神障害の診断と検査の種類
1. 診断の基礎と要点
2. 検査の種類

Ⅳ　主な精神障害の診療
1. 各種治療法
1)薬物療法
2)社会復帰療法
3)精神療法
2. 主な疾患の診療
1)脳器質性精神病
2)症状精神病
3)アルコール依存と薬物依存
4)てんかん
5)統合失調症
6)躁うつ病
7)神経症と心因精神病
8)人格障害
9)児童・思春期の主な精神障害</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">100点の試験を行う、60%(60点)以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学[1]　精神看護の基礎」　医学書院
「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学[2]　精神看護の展開」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書等</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　精神看護学

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ			担当教員	田 井 中　彰 二		
開講年次	２年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	精神障害によって生じる日常生活行動や人間関係への影響を理解し、生活を整えるための援助方法を学ぶ。						
	Ⅰ.精神看護の基本的技術 1.コミュニケーション 2.プロセスレコード 3.ロールプレイング			対人関係を円滑にし、精神看護に活かせるコミュニケーション方法を学ぶ。プロセスレコードを通して、自己のコミュニケーションを振り返る方法を学ぶ。（講義・演習）			
	Ⅱ.心のバランスを崩した人が体験する諸症状 1.不安 2.幻覚・妄想 3.強迫行為			精神症状についての対応方法やアプローチの仕方を学ぶ。(講義)			
	Ⅲ.精神状態の理解と看護 1.統合失調症 2.気分（感情）障害 3.てんかん 4.アルコール依存症 5.パーソナリティ障害 ほか			主な疾患における症状と観察ポイント・援助方法を学ぶ。 事例を用いて看護過程の展開を行い、発達段階と課題をふまえた対象理解と看護のポイントを学ぶ。(講義・演習)			
	Ⅳ.治療に伴う援助 1.精神療法 2.薬物療法 3.作業療法 4.社会生活技能訓練(SST)			対象が治療を受けるために必要な援助を学ぶ。(講義)			
	Ⅴ.入院生活上の問題と看護 1.行動制限 2.危険物 3.事故・離院 4.ホスピタリズム・代理行為			心を病む人の安全を守る、入院上の問題と看護を学ぶ。（講義・演習）			
	Ⅵ.社会資源と看護 1.デイケア 2.社会復帰施設 3.セルフヘルプグループ			社会復帰につながる社会資源の種類や活動を学ぶ。(講義)			
評価方法	100点の試験を行う、60％(60点)以上を合格とする(レポート・看護過程を含む)						
教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学[1]　精神看護の基礎」　医学書院 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学[2]　精神看護の展開」　医学書院						
参考書等							

【2年次学習科目】　　統合分野　　在宅看護論

授業科目	在宅看護特論			担当教員	細 川　洋 子		
開講年次	２年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	２単位 30時間	授業 形態	講義
科目概要	地域で生活している在宅療養者とその家族を理解し、在宅看護の機能と役割を理解する。						
授業計画	Ⅰ 在宅看護の概念 1.在宅看護とは 2.在宅看護の対象 3.在宅看護の場と特徴 4.在宅療養者の権利保障と看護の責務			在宅看護の対象は療養者とその家族であることを理解した上で、療養しながら生活する中で抱える問題に目を向け、その人たちに合った解決方法を学ぶ。（講義・グループワーク）			
	Ⅱ 在宅看護の機能と役割 1.在宅看護の基本 2.介護保険の仕組みと活用 3.多職種と社会資源 4.ケアマネジメント 5.在宅看護の問題と課題 6.在宅看護における教育指導			療養者がその人らしく生活していくための地域包括ケアシステムを理解し、在宅看護の機能と多職種と協働する中での看護の役割について学ぶ。 療養者やその家族への指導や相談方法を学ぶ。（講義・演習）			
	Ⅲ 地域看護活動 1.地域を捉える視点 2.地域における看護活動 3.在宅ケアのニーズ			地域アセスメントの方法を知り、地域で展開される看護活動を知る。（講義）			
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」　医学書院 「よくわかる在宅看護」Gakken						
参考書	「写真でわかる訪問看護」　インターメディカ						

【２年次学習科目】　　統合分野　　在宅看護論

授業科目	在宅看護援助論			担当教員	細 川　洋 子		
開講年次	２年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	２単位 45時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	障害または疾患をもちながら在宅で生活する人とその家族に応じた在宅看護の援助技術を習得する。						
授業計画	Ⅰ在宅看護活動 1.在宅看護における援助関係の基本 2.訪問看護に求められる基本姿勢			訪問時のマナーや在宅看護を行ううえで援助関係が成立するための倫理的行動がとれるようにロールプレイングを取り入れて学びを深める。 ・基本的なマナー ・訪問中の態度 ・在宅看護における看護師の責任 ・その他　（講義・演習）			
	Ⅱ 在宅療養生活を支える看護 1.日常生活援助技術 2.医療管理を必要とする人への看護			在宅における日常生活援助に必要な援助技術を学ぶ。 在宅で行われる医療処置の方法を学ぶ （講義・演習）			
	Ⅲ 在宅看護を必要とする人への援助 1.病期に応じた看護 2.特徴的な疾病がある療養者への看護 3.看護過程 1)ALSの療養者			様々な病期や特徴的な疾患をもつ療養者の看護を学ぶ。 療養者が地域で生活していくために、多職種との連携や社会資源の活用方法も取り入れながら、事例を通して看護過程を展開する。 （講義・演習・グループワーク）			
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」　医学書院 「よくわかる在宅看護」Gakken						
参考書	「写真でわかる訪問看護」　インターメディカ						

【３年次学習科目】　　統合分野　　看護の統合と実践

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">災害看護と看護管理</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">林　カ オ リ　・　北 林　栄</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>３年次
前期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
30時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">１．災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に 影響を及ぼすことを理解し、さらに社会における看護の役割を果たすために、必要な看護活動を理解する。
２．チーム医療および他職種との協働の中で、看護活動を円滑に行い適切な看護サービスができるよう、看護管理の基礎を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">災害看護（17時間）
Ⅰ　災害および災害看護に関する基礎的知識
1. 災害看護の歴史的展望
2. 災害看護の定義と概要
3. 災害サイクル、災害種類別・対象者別による被害の特徴
4. 災害に関する理論
Ⅱ　災害発生時の社会の対応やしくみ、個人の備え
1. 災害に関連する法律・制度
2. 国際的支援のしくみ
3. 災害関係機関の支援体制
4. 災害ボランティア活動
Ⅲ　災害が人々の生命や生活に及ぼす影響
1. 災害種類別疾患の特徴
2. 災害時の心理
Ⅳ　災害時に看護が果たす役割と看護支援活動
1. 災害看護の基本と看護の役割
2. 災害関連機関との連携
Ⅴ　演習
1. 災害時に必要な技術（トリアージ・搬送・心肺蘇生法・応急処置）
看護管理（12時間）
Ⅰ　看護管理とは
Ⅱ　病院における看護管理
Ⅲ　看護管理の機能
1. 人事管理
2. 業務管理
3. 労務管理
4. 設備・機器の管理
Ⅳ　各看護単位での看護管理
Ⅴ　医療チームにおける看護職の協働活動</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験。本科目の筆記試験は災害看護と看護管理で構成する。各単元50点とし、それぞれ60％（各30点）以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「看護の統合と実践③　災害看護」　メディカ出版
「看護の統合と実践①　看護管理」　メディカ出版</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【１年次学習科目】　　統合分野　　看護の統合と実践

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">医療と安全Ｉ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">神 山　恵 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>１年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
１５時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">安全の意義や安全を脅かす諸因子を理解し、医療事故予防に必要な要素を学ぶ。
シミュレーション体験を通して、自己の特性や傾向を知る。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授業
計画</td><td colspan="3">Ⅰ．医療安全の概念（8時間）
１．医療安全とは
2．医療事故の種類
3．医療事故の動向
4．ハインリッヒの法則</td><td colspan="4">現在の医療における医療事故の実態を知り、人間がミスを犯す存在であることを認識する。
日本文化の「隠す」「言い控える」、人間の記憶・注意・イメージの特性など人間の特性と環境の作用の中で起こる結果について理解し、医療者が自己モニタリングやメタ認知力を働かせ安全意識の高い組織を築き、患者主体に考えた危険回避行動を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅱ．人間はミスを犯す存在である
1．私の特性
2．人間の特性
（こじつけ解釈、期待聴取）
Ⅲ．なぜ人間はエラーを犯すのか
1．ヒューマンエラーのメカニズム
2．ルールを守らないこととリスク</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅳ．人間が犯すエラーを防ぐ方法
1．ｱﾌｫｰﾀﾞﾝｽによる事故予防の仕掛け
2．ｽｲｽ・ﾁｰｽﾞﾓﾃﾞﾙの視点とシステム改善
3．メタ認知と自己モニタリング</td><td colspan="4">行動の単純化や標準化の必要性、立ち止まり考えること及び自己の客観視・自己の傾向を理解し、エラーを防ぐ方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅴ．事故要因
1．患者の身体的要因
2．心理社会的要因
3．環境要因
4．治療に伴う要因
5．看護師要因

Ⅵ．事故分析方法
1．ＳＨＥＬモデル
2．４Ｍ－４Ｅ方式
3．ＲＣＡ（根本原因分析）
4．マクロ的分析
5．Ｍｅｄｉｃａｌ　Safe</td><td colspan="4">安全は、人間の注意に頼る方法では不十分である。事故の現象から見える背後要因を理解しシステム改善の必要性を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅶ．安全教育シミュレーション体験
（6時間）</td><td colspan="4">安全な看護実践に必要となる倫理（代弁や表現支援、有益性・危険性の説明、情報提供などの能力）判断（危険因子の査定、危険の予測などの能力）技術（自己モニタリング）について体験を通して学ぶ。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験、シミュレーション体験の参加度</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">松下由美子 著「ナーシンググラフィカEX1　医療安全」　　メディカ出版
川村　治子 著「医療安全ワークブック」　　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">河野龍太郎 著「医療におけるヒューマンエラー　なぜ間違える　どう防ぐ」医学書院</td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　統合分野　　看護の統合と実践

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">医療と安全Ⅱ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">窪 田　祥 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>２年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
15時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">危険を予測し、対象の安全・安楽を思考するために必要な能力を養う。
シミュレーション体験を通して、危険回避に必要な判断力を養う。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="4">Ⅰ．危険回避の看護実践（8時間）
1.危険予知トレーニング
2.事例検討
1)背後要因の抽出
2)危険回避の対策
(1)一連の行為を分断しない
(2)確認の実施（6R）
(3)危険回避のためのコミュニケーション
(4)危険を回避するための自己コントロール
3．職業倫理(安全教育指導指針)</td><td colspan="3">医療安全には認知・予測、安全の優先、気付き、できる能力、事故検出策、備えなどが必要である。
本校の安全教育の基本である指導指針から安全な看護実践に必要となる能力を理解する。また、演習を通して思考力を働かせ、安全・安楽、危険回避対策について学ぶ。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">Ⅱ．安全教育シミュレーション体験
（6時間）</td><td colspan="3">安全な看護実践に必要となる倫理（有益性・危険性の説明、情報提供などの能力）判断（批判的思考、発言・主張するなどの能力）技術（観察・判断の確かさの追及、自己モニタリング）について体験を通して学ぶ。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">筆記試験、シミュレーション体験の参加度</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">「ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践②　医療安全」　メディカ出版
「医療安全ワークブック」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">「医療におけるヒューマンエラー　なぜ間違える　どう防ぐ」医学書院</td></tr>
</table>

【３年次学習科目】　　統合分野　　看護の統合と実践

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">医療と安全Ⅲ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">細 川　洋 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>３年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>１単位
１５時間</td><td>授業
形態</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">事故分析に関する方法を学び、危険なものを安全なものに変えるという認識とともに、安全・ 安楽、危険 回避対策について学ぶ。
シミュレーション体験を通して、事故防止のための対処行動ができる。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="3">Ⅰ．危険回避の看護実践（8時間）
１．事例検討（RCA）

Ⅱ．安全を保証する組織
1. 職業倫理と法的責任
2. チームの役割

Ⅲ．患者に与える影響の優先
1. 患者主体の医療安全
2. 自己決定の支援

Ⅳ．安全教育シミュレーション体験
（6時間）</td><td colspan="4">医療安全には認知・予測、安全の優先、気付き、できる能力、事故検出策、備えなどが必要である。演習を通して思考力を働かせ、安全・安楽、危険回避対策について学ぶ。
安全意識の高い組織づくりに参加する自己の責任を理解し、患者及び患者を取り巻く人・環境の特性がマイナスで現れないよう、システムで考える必要性を学ぶ。

安全な看護実践に必要となる倫理・判断（特に優先順位）技術（確実な看護行為と自己モニタリング）について体験を通して学ぶ。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">事故分析シートの提出、シミュレーション体験の参加度</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7">松下由美子　著「ナーシンググラフィカEX1　医療安全」　メディカ出版
川村　治子　著「医療安全ワークブック」　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">河野龍太郎　著「医療におけるヒューマンエラー　なぜ間違える　どう防ぐ」医学書院</td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　統合分野　　看護の統合と実践

授業科目	看護セミナーⅠ			担当教員	林　カ オ リ　・　高 嶋　愛 里		
開講年次	２年次前期	選択必須	必須	単位数時間数	１単位30時間	授業形態	講義・討議
科目概要	１　集団におけるメンバーシップ、リーダーシップについて理解する。 ２　国際看護の実際を知り、国際看護活動をするための基礎的な方法を理解する。						
授業計画	Ⅰ　リーダーシップとフォロアーシップ（2時間） 1.フォロワーシップ＝「従支性・従支力」 2.ドラッカー　リーダーシップ論 Ⅱ 国際看護（6時間） 1.看護基礎教育における国際看護とは 2.異文化理解と国際協力 3.国際医療 1)国際医療と組織（WHO,ODA,JOCV,JICA,NGO） 2)海外における医療（災害医療） 3)国内の在日外国人に対する医療 4)感染症、産科、乳幼児 4.国際看護活動の支援を必要とする看護 1)海外における看護活動 2)国内の在日外国人に対する看護 5.異文化理解と国際看護 1)外国人看護師 2)文化を考慮した看護 3)国際看護活動に必要な能力 6.国際看護活動の実際 Ⅲ グループワークとプレゼンテーション(10時間) 1)国際看護活動の取り組み 2)私たちにできる国際看護活動 Ⅳ 国際交流会へ参加(4時間)						
評価方法	グループワークの参加状況、レポート						
教科書	「新体系　看護学全書39　看護の統合と実践③　国際看護学　」メヂカルフレンド社						
参考書等							

【３年次学習科目】　　統合分野　　看護の統合と実践

授業科目	看護セミナーⅡ			担当教員	宇 野　三 奈 子		
開講年次	３年次 前・後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	学内実習・演習
科目概要	既習の知識と技術を統合し、看護実践に必要な基礎的看護技術を習得する。						
授業計画	学習方法 1. 個人で安全・安楽な看護実践に必要な学習を行い、理解度を高める。 2. 個々の学習内容をグループで共有し、実施項目について必要内容を共通理解する。 3. グループで合意が得られた内容から看護計画を立案する。 4. 看護計画に沿って演習実施後、実施記録を各自で記載し振り返りを行う。 5. 筆記試験で知識を確認する。 6. 技術チェックで知識と技術を確認する。 学習内容 １回目　科目のオリエンテーション ２・３回目　経鼻胃チューブの挿入・確認 皮下・筋肉・点滴静脈内注射に関する学習 ４・５回目　経鼻胃チューブ・与薬 ６回目　筆記試験（90分） ７回目　結果の振り返りと学習 ８～10回目　AEDに関する学習 静脈内採血に関する学習 11～12回目　AED・静脈内採血について演習 13回目　筆記試験（90分） 14・15回目　技術チェック						
評価方法	学習レポート（40%）、筆記試験（50%）、技術チェック（10%）で評価する。 合計100点満点とし、60%（60点）を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器」医学書院 「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」医学書院 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学」医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」医学書院 「わかりやすい栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際」ヌーベルヒロカワ 「ナーシンググラフィカ 医療安全」メディカ出版 「医療安全ワークブック」医学書院						
参考書等	「看護師国家試験出題基準」他、授業で適宜紹介する。						

【１1年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">基礎看護学実習Ⅰ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">窪田　祥子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>1年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>1単位
45時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">1. 患者および家族に応じたコミュニケーション・日常生活の援助技術を習得する。
2. 保健・医療・福祉チームの一員としての基本的態度を身につける。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">目標：　1. 患者および家族に応じたコミュニケーションができる。
2. 患者に応じた安全･安楽な援助が実践できる。
3. 保健、医療、福祉のチームの一員としての自覚と責任を養うことができる。
4. 学生としての責任ある行動をとり、自己成長への努力ができる。
5. 自己の看護観を考えることができる。

展開方法:　1. 日常生活行動に問題を持つ患者を1名受け持つ。
2. 学内で学んだコミュニケーション技術を用い患者との効果的な
コミュニケーションの方法を体験する。
3. 対象患者の情報収集を行い援助の必要性を理解し、日常生活援助を
計画･実施する。（基礎看護学実習Ⅰ記録用紙を用いる）
4. 病院内の各部内の施設見学を行い、業務内容の説明を受ける。

＜実習場所＞
公立甲賀病院　2階西病棟･3階東病棟･3階西病棟･4階東病棟･4階西病棟
5階東病棟･5階西病棟</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書等</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【２　年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">基礎看護学実習Ⅱ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">窪田　祥子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>2年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">療養生活をする患者の健康問題について系統的、科学的にアセスメントする方法を学ぶ。また、健康障害を持つ患者に応じた援助を実施する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">目標　：　１．健康障害がある患者の状況を理解することができる。
２．健康障害のある患者に応じた看護過程の展開ができる。
３．患者に応じた援助ができる。
４．医療チームの一員としての基本的態度を身につけることができる。
５．学生としての責任ある行動をとり、自己成長への努力ができる。
６．看護に対する考えを深めることができる。

展開方法　：　１．日常生活行動に問題を持つ患者を１名受け持つ。
２．看護過程を活用し看護を導き出す。
１）収集した情報を各健康機能パターン毎に整理する。
２）患者にとって主要な健康機能パターンの情報を分析する。
３）問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。
３．実習期間を通して患者に応じた安全・安楽・自立を考慮した日常生活援助を実施する。（基礎看護学実習記録用紙を用いる）

＜実習場所＞
公立甲賀病院　3階西病棟、4階東病棟、4階西病棟、5階東病棟、５階西病棟
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院　2階病棟、3階病棟</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅰ　　基礎看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">成人看護学実習Ⅰ</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">左 子　寿 喜 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>2年次
後期</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">日常生活行動に障害がある患者を理解し、日常生活や残存機能維持・拡大に必要な看護が実践できる能力を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">目標
1. 健康上に課題がある対象の身体的・精神的・社会的特徴を統合的に理解できる。
2. 科学的思考に基づき、対象の健康レベルに応じた個別的な看護が実践できる。
3. 対象を尊重し、円滑な人間関係を築くことができる。
4. 社会資源を活用するための看護の役割を考え、医療チームの一員として認識をもった行動ができる。
5. 成人看護の体験を通して、自己の看護観を深めることができる。

展開方法
1. 日常生活行動に障害がある患者を受け持つ。
2. アセスメントツールに従い情報の整理・分析を行う。
3. 対象の問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。
4. 統合された看護上の問題から１～２つの＃を選択しそれぞれ看護計画を立案する。
5. 立案した看護計画に基づいて看護を実施する。
6. 対象の状態や反応から解決策を修正し、援助を行う。
7. 日々の解決策を評価し、看護計画を評価・修正する。

＜実習場所＞
公立甲賀病院　５階東病棟、５階西病棟、４階東病棟、４階西病棟、３階西病棟、
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院　　２階病棟、３階病棟</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【3年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　成人看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">成人看護学実習Ⅱ</td><td>担当教員</td><td colspan="3">後 村　敦 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>３年次</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">＜手術による生体侵襲を受ける人の看護＞
　成人看護学特論・成人看護学援助論をふまえ、全身麻酔下の手術を受ける対象を理解し、生命維持と苦痛緩和への援助ができる。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">目標
1. 手術療法を受ける対象を統合的に理解できる。
2. 手術を受ける対象に生命の維持と苦痛緩和のための看護ができる。
3. 保健・医療・福祉における看護の役割を考え、医療チームの一員であることを認識した行動ができる。
4. 急性期の看護に対する考えを深めることができる。

展開方法
1. アセスメントツールに従い情報の整理・分析を行う。
2. 対象の問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。
3. 生命維持・苦痛緩和に必要な対象の看護計画を立案する。
4. 立案した看護計画に基づいて、看護を実施する。
5. 対象の看護上の問題が早期に解決するよう看護計画を修正する。
6. 優先度の高い看護上の問題から解決に向けて援助を実践する。
7. 日々の解決策を評価し、看護計画を修正する。

実習場所
　公立甲賀病院　　3階東病棟、手術室(見学)
　　ICU(受け持ち患者が入室の場合、実習の状況に応じて)</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">成人看護学援助論Ⅱで学習した文献、資料、教科書。成人看護学援助論Ⅴで学んだペーパーペイシェントの看護過程。成人看護学特論・援助論の資料や教科書</td></tr>
</table>

授業科目	成人看護学実習Ⅲ			担当教員	左 子　寿 喜 子		
開講年次	3年次	選択必須	必須	単位数時間数	2単位90時間	授業形態	臨地実習
科目概要	＜慢性的な疾病や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象の看護＞ 慢性期及び終末期にある対象を理解し、成長・発達・適応の可能性を最大限引き出す援助ができる。						
	＜目標＞ １．慢性的な疾病や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象の状況を述べることができる。 ２．慢性的な疾病や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象に成長・発達・適応の可能性を最大限引き出す看護ができる。 ３．保健・医療・福祉における看護の役割を考え、医療チームの一員であることを認識した行動ができる。 ４．慢性的な疾患や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象の看護に対する関心を深めることができる。 ＜展開方法＞ １．アセスメントツールに従い情報の整理・分析を行う。 ２．対象の問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。 ３．成長・発達・適応に必要な対象の看護計画（Ⅳ号用紙）を立案する。 ４．立案した看護計画に基づいて、看護を実施・評価する。（Ⅴ号用紙） （必要に応じ計画を修正・変更する。） ５．優先度の高い看護上の問題から解決に向けて援助を実践する。 ６．日々の看護を評価し、看護計画（解決策）を修正する。 ＜実習場所＞ 公立甲賀病院　　4階東病棟、4階西病棟						
評価方法	評価表に基づき評価する。						
教科書	基礎看護学援助論で学習した文献、資料。 病態論、成人看護学特論・援助論のテキストや資料など。						
参考書							

【２年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　老年看護学

授業科目	老年看護学実習Ⅰ			担当教員	神山　恵子		
開講年次	２年次	選択必須	必須	単位数時間数	2単位90時間	授業形態	臨地実習
科目概要	1. 老年看護学実習ⅠとⅡに分け、Ⅰは２年次に、Ⅱは３年次に行う。 2. 老年看護学実習Ⅰでは、地域で暮らす元気で活動的な高齢者の生活を学び、介護老人福祉施設または介護老人保健施設等で認知症高齢者との関わり方を学ぶ。						
授業計画	目標： 1. 対象の発達段階を捉え、老化に伴う変化を理解することができる。 2. 対象の健康状況、日常生活行動を把握し生活背景や生活習慣との関連を理解する。 3. 対象のセルフケア能力をふまえ、残存機能を生かした日常生活援助ができる。 4. 対象の生活歴を理解し、生活信条･価値観を尊重し良好な人間関係を築くことができる。 5. 対象との関わりを通して、自己の老年観を発展させることができる。 展開方法 1. 元気で活動的な高齢者を理解するために、地域での活動に参加し高齢者と交流する。 2. 認知症高齢者の症状や日常生活を理解するために、施設で５日間認知症高齢者を受け持ち、コミュニケーションや日常生活援助を体験する。 3. デイサービスまたはデイケアにおける看護師の役割と、利用する高齢者の概要を理解するために、３日間デイサービスまたはデイケアで実習する。 １週目） （１）地域での活動に参加できる実習の予定に沿って、高齢者と交流をする。 （２）グループ別に分かれて参加する活動もある。 （３）交流での学びをまとめ、発表する。 ２・３週目） （１）施設において５日間認知症高齢者を受け持ち、コミュニケーションや日常生活援助を体験する。 （２）原則として受け持ち利用者以外の援助は行わないが、コミュニケーションを通して他の利用者の認知症の症状や関わり方も学ぶ。 （３）デイサービスまたはデイケアで３日間実習する。						
評価方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書							

【３年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　老年看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">老年看護学実習Ⅱ</td><td>担当
教員</td><td colspan="4">神 山　恵 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>３年次</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">１．老年看護学実習はⅠとⅡに分け、Ⅰは２年次に、Ⅱは３年次に行う。
２．老年看護学実習Ⅱでは、病院において健康障害や生活行動に障害のある高齢者の看護を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">＜目標＞
1. 対象の発達段階を捉え、老化に伴う変化を理解することができる。
2. 対象の健康状況、日常生活行動を把握し、生活背景や生活習慣との関連を理解する。
3. 対象のセルフケア能力をふまえ、残存機能を生かした日常生活援助ができる。
4. 健康を障害された高齢者を統合的に理解し、健康レベルに応じた援助ができる。
5. 対象を取り巻く環境を捉え、保健･医療･福祉の連携における看護の役割を理解し、チームの一員としての行動がとれる。
6. 対象の生活歴を理解し、生活信条･価値観を尊重し良好な人間関係を築くことができる。
7. 対象との関わりを通して、自己の老年観を発展させることができる。

＜展開方法＞
１週目
① 病棟の特徴や受け持ち患者の入院生活を理解する。
② 病棟の看護計画に沿い,看護を実践し、対象を理解する。
・受け持ち患者の看護に必要な情報を収集し、分析・解釈・統合する。
・看護上の問題の優先順位を明確にし、看護の方向性を確認する。
２週目
① 受け持ち患者の看護目標を設定し、立案した看護計画に沿い看護を実践する。
② 実施した看護を評価し、必要に応じて計画を修正する。
③ 自己の中間評価を行い、個人面接を通して今後の課題を明確にする。
３週目
① 実施した看護を評価し、必要に応じて計画を修正する。
② 実習の自己評価を行い、学んだことを確認する。さらに今後の課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【３年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　小児看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">小児看護学実習</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">正 木　康 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>３年次</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>２単位
９０時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・小児看護学実習は、3年次に行う。
・小児看護学実習は、保育園実習で健康な乳幼児の成長発達を理解する。
　小児科病棟実習では健康を障害されさまざまな健康段階にある子どもとその家族に対し個別性のある看護を学ぶ。
　重症心身障害児病棟実習では心身に障害を持った子どもやそれを取り巻く環境について理解し援助の方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">＜目標＞
1.子どもの特徴を理解し、成長発達を促進するために必要な援助を実施できる。
2.子どもとその家族を統合的に理解し、健康問題に応じた看護過程の展開ができる。
3.小児看護に必要な基本的看護技術を習得する。
4.子どもとその家族を尊重し、円滑な人間関係を築くことができる。
5.子どもを取り巻く環境を捉え保健・医療・福祉・教育の連携における看護の役割を理解し、チームの一員として責任ある行動が取れる。
6.自己の子ども観を養い、小児看護に対する関心を深めることができる。

＜展開方法＞
1.保育園実習
1）園の保育活動スケジュールに沿い、担当するクラスの保育活動に参加する。
2）積極的に担当クラスの幼児と関わり健康な幼児の成長発達や生活習慣を観察する。
3）各年齢に応じた養護の実際を見学し発達段階に応じた生活の援助を一部実施する。
4）多くの子どもたちと積極的にコミュニケーションをとり、共に遊ぶ。

2.小児科病棟実習
1）受け持ち患児が決定次第、看護師とともに援助に参加しながら情報を収集し患児の全体像を把握する。
2）病棟の看護計画に基づいて、援助の具体策を立案、実施し、援助の評価と具体策の修正を行う。
3）受け持ち患児がいない期間は、機能別実習として別の対象で援助技術の見学や実施を行う。
4）実習期間中、３時間程度の外来実習を行い外来看護の実際を見学する。

3.重症心身障害児病棟実習
1）重症心身障害児の入院生活の環境を見学し、特殊性とその必要性を考える。
2）児とのコミュニケーションや遊び、さらに、生活場面（日常生活援助や養護学校での学習など)の見学を行う。
3）援助の根拠を考えながら病棟の計画に基づいて日常生活援助の一部介助を実施する。

＜実習場所＞
甲賀市水口西保育園、甲賀市水口東保育園、甲賀市伴谷保育園、甲賀市岩上保育園
公立甲賀病院　2階西病棟
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院　1階病棟</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【３年次学習科目】　　専門分野Ⅱ　　母性看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="2">母性看護学実習</td><td>担当
教員</td><td colspan="4">宇 野　三 奈 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>３年次</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>２単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">母性看護学実習は妊婦・産婦・褥婦および新生児が正常な経過をたどるための援助を学ぶ実習とする。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">＜目標＞
１　妊娠・分娩・産褥各期の母性および新生児の生理的変化と心理・社会的特徴について理解できる。
２　妊娠･分娩・産褥各期の母性および新生児の看護の必要性を理解し、基本的な援助ができる。
３　母子相互作用を理解し、母親としての健康な生活の維持や母子関係成立・母親役割習得への援助ができる。
４　母子の健康な生活を継続させるために、地域社会や関連諸機関との連携・社会資源の活用方法が理解できる。
５　生命の尊厳や、自己の母性に対する考え方（母性観・父性観）を深めることができる。
６　母子・家族および医療チームと良い人間関係を保つことができる。

＜展開方法＞
１　母性看護学実習は、病院実習90時間（病棟と外来）で構成する。
２　妊娠･分娩・産褥の経過および新生児の生理的変化を理解し、母子および夫・家族に必要な看護の実際を学ぶ。

１週目
①病棟の特徴を理解する。
②受け持ちの対象となる褥婦・新生児又は妊婦がいる場合は受け持ちを開始する。
③看護計画立案までは病棟の看護計画に基づいて褥婦・新生児又は妊婦に援助を実施する。
④受け持ちの対象となる褥婦・新生児がいない場合は仮受け持ちをして援助の見学と実施をする。
⑤分娩があれば見学（立ち会い、スタッフと共に看護）をする。

２・３週目
①外来実習（妊娠期）を１回以上行い妊婦の看護を学ぶ。
②褥婦・新生児又は妊婦を受け持ち、看護計画を立案する。新生児の援助は病棟の看護計画に準じて行う。
③立案した看護計画に基づいて看護を実施する。
④分娩があれば見学（立ち会い、スタッフと共に看護）をする。

＜実習場所＞
公立甲賀病院　2階東病棟
公立甲賀病院　産婦人科外来</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【3年次学習科目】　専門分野Ⅱ　精神看護学

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">精神看護学実習</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">田 井 中　彰 二</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>3年次</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">・精神看護学実習は、3年次に行う。
・精神看護学実習は、精神障害のある人の看護を学ぶ実習とする。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">＜目標＞
1.精神障害のある患者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2.精神障害によって生じる日常生活の問題を把握し、社会生活適応に向けた看護が実践できる。
3.患者とのコミュニケーションを通し、治療的関係としての患者-看護者関係を築くことができる。
4.精神科病棟の治療環境を学び、安全な環境調整における看護の役割が理解できる。
5.社会資源を活用するための看護の役割を考え、医療チームの一員としての認識をもった行動ができる。
6.精神看護の体験を通し自己の看護観を深めることができる。

＜展開方法＞
1週目
(1)病棟の特徴と院内の施設を知り、患者の治療環境としての病院・病棟の特性を理解する。
(2)病棟の看護計画に基づいて、患者とのコミュニケーションや日常生活援助を実施する。
(3)患者の言動の意味を考えるとともに、自己の感情を顕在化させたり自己の傾向を自覚したりしながらコミュニケーションを実施する。
2週目
(1)患者の情報収集・分析を行い、看護計画を立案する。
(2)立案した看護計画に基づいて、コミュニケーションや日常生活援助を実施する。
(3)レクリエーションを計画・実践する。
(4)社会復帰施設の実際を知り、看護の役割を理解する。
3週目
(1)立案した看護計画に基づいて看護を実施する。
(2)実施した看護を評価し、必要に応じて計画を修正する。
(3)実習を自己評価し、学んだことを確認するとともに今後の課題を明確にする。

＜実習場所＞
実習病院
水口病院2M・3M・4M病棟

社会復帰施設
デイケア（水口病院内）
精神障害者生活訓練施設（援護寮）：しろやまコミュニティーハウス
精神障害者地域生活支援センター：地域生活支援センターしろやま
精神障害者授産施設：社会福祉法人　わたむきの里福祉会作業所</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【３年次学習科目】　　統合分野　　在宅看護論

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">在宅看護論実習</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">細 川　洋 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>3年次</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">在宅看護論実習は地域での健康生活を支える健康のしくみや疾病を持ちながら在宅で療養する人々の看護の基本を学ぶために実習を行う。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">目標
1. 地域保健活動の機能と役割を理解し、地域で生活している人々の健康の維持、増進、疾病予防のための援助方法がわかる。
2. 在宅療養者とその家族の現状が理解できる。
3. 訪問看護で行われている援助が理解できる。
4. 在宅療養者とその家族を尊重し、倫理的判断に基づいた行動がとれる。
5. 社会資源の活用と関係機関との連携について理解できる。
6. 訪問看護を通し、自己の看護観を深める。
展開方法
1. 第1週：保健センター
1）保健センター事業に参加する　(1)健康づくりの推進
(2)母子保健対策
(3)成人・老人保健対策
(4)その他
2. 第2、3週：訪問看護ステーション
1）訪問看護に同行する　(1)訪問する療養者の情報収集をする
(2)訪問看護に同行し、看護の実際を見学する
(3)訪問後に訪問看護記録を書く
(4)ケースカンファレンスがあれば参加する
(5)訪問看護実習を自己評価し、学んだことを確認するとともに今後の課題につなげる
3. 在宅介護センター（訪問入浴）
1）訪問入浴に同行する　(1)訪問入浴の実際を見学する
4. 地域連携室
1）地域連携業務の説明を受ける　(1)地域連携業務の実際を学び、事例検討をする
実習場所　保健センター(甲賀市　湖南市）、アサヒサンクリーン在宅介護センター甲賀
公立甲賀病院（訪問看護ステーション：サテライトを含む、地域連携部）
生田病院（こうせい訪問看護ステーション、地域連携室）</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づき評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書等</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

【3年次学習科目】　　統合分野　　臨地実習

<table>
<tr><td>授業
科目</td><td colspan="3">統合実習</td><td>担当
教員</td><td colspan="3">細 川　洋 子</td></tr>
<tr><td>開講
年次</td><td>3年次</td><td>選択
必須</td><td>必須</td><td>単位数
時間数</td><td>2単位
90時間</td><td>授業
形態</td><td>臨地実習</td></tr>
<tr><td>科目
概要</td><td colspan="7">1. 統合実習は3年次の全ての領域実習終了後に行う。
2. 統合実習は複数の受け持ち患者の状況および援助の優先度を判断しながら、対象に応じた看護を行う実習とする。</td></tr>
<tr><td>授業
計画</td><td colspan="7">〈実習目標〉
1. 複数の受け持ち患者の健康障害について述べることができる。
2. 受け持ち看護師が立案した看護計画に基づいて具体策の立案・修正・評価ができる。
3. 立案・修正した具体策に基づいて援助ができる。
4. 患者および家族を尊重し、良好な人間関係を築くことができる。
5. 看護チームの一員としての認識をもった行動ができる。
6. 看護に対する考えを述べることができる。
＜実習展開方法＞
1. 成人期・老年期にある軽傷もしくは臥床状態の患者を2名同時に受け持つ。患者が退院時は別の患者を受け持ち、常時2名を受け持つ。
2. 実習の進め方
1週目
1）病棟の特徴や患者の入院生活を理解する。
2）病棟の看護援助に参加しながら情報を収集し、患者の全体像を把握する。
3）病棟の看護計画に基づいて、看護師と共に複数患者の日常生活援助を実施、および評価、修正をする。
4）2日間連続して夜間実習（15：00～20：00）を木・金曜日から行う。
2～3週目
1）解決策に基づいて看護師とともに複数患者の日常生活援助を実施する。
2）優先度を考え、複数患者の援助を実施する。
3）必要時、受け持ち患者の看護上の問題についてチームカンファレンスで検討する。
4）2日間連続して夜間実習（15：00～20：00）を行う。
5）2週目のいずれかの日に中間評価を行い、実習後半の課題を明確にする。
6）最終日には3週間の実習を自己評価し、学びと今後の課題を確認する。

＜実習場所＞　公立甲賀病院　２階西（小児科を除く）・３階西・３階東・４階西
４階東・５階西・５階東病棟</td></tr>
<tr><td>評価
方法</td><td colspan="7">評価表に基づく</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>